

様式1

大学等名	北陸大学
プログラム名	北陸大学データサイエンス・AI応用基礎プログラム(経済経営学部)
適用モデルカリキュラム	改訂版モデルカリキュラム(2024年2月22日改訂)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 ② 既認定プログラムとの関係

③ 教育プログラムの修了要件

④ 対象となる学部・学科名称

⑤ 修了要件
「北陸大学データサイエンス・AI応用基礎プログラム(経済経営学部)」は、必須科目(※)6科目(各2単位)・12単位を修得することで、プログラム修了とする。
※必須科目は「情報リテラシー」「プログラミング入門」「AI基礎」「データサイエンス2」「データサイエンスのための数学」「データサイエンス4」

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

⑥ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
プログラミング入門	2	○			○	○	○							
データサイエンスのための数学	2	○	○	○										
AI基礎	2	○				○								
データサイエンス2	2	○	○											

⑦ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-10	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-10
情報リテラシー	2	○	○	○																			
AI基礎	2	○			○	○	○	○	○	○	○												
データサイエンス2	2	○	○	○																			
データサイエンス4	2	○		○		○	○	○	○	○	○												

⑧ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
情報リテラシー	2	○			
AI基礎	2	○			
データサイエンス4	2	○			
プログラミング入門	2	○			

⑨ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンスのための数学	数学発展		
AI基礎	AI応用基礎		
データサイエンス2	データサイエンス応用基礎		
データサイエンス4	AI応用基礎		

--	--	--	--

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率 「データサイエンスのための数学」(第1・2回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差 「データサイエンスのための数学」(第3回) ・相関係数、相関関係と因果関係 「データサイエンスのための数学」(第12回)、「データサイエンス2」(第4回) ・確率分布、正規分布、独立同一分布 「データサイエンスのための数学」(第4回)、「データサイエンス2」(第6回) ・ベクトルと行列 「データサイエンスのための数学」(第5回) ・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積 「データサイエンスのための数学」(第5・6回) ・行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積 「データサイエンスのための数学」(第5・6回) ・関数の概念、合成関数、逆関数 「データサイエンスのための数学」(第8回) ・多項式関数、指数関数、対数関数 「データサイエンスのための数学」(第9回) ・関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係 「データサイエンスのための数学」(第10・12回) ・1変数関数の微分法、積分法 「データサイエンスのための数学」(第10・12回) ・2変数関数の微分法、積分法 「データサイエンスのための数学」(第11回)
	1-7	・アルゴリズムの表現 「データサイエンスのための数学」(第13回)、「プログラミング入門」(第5回) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ) 「データサイエンスのための数学」(第13回) ・ニュートン法、乱数を用いたアルゴリズム 「データサイエンスのための数学」(第14回)
	2-2	・コンピュータで扱うデータ 「AI基礎」(第2回) ・構造化データ、非構造化データ 「AI基礎」(第2回) ・情報量の単位、二進数、文字コード 「AI基礎」(第2回) ・画像の符号化、画素(ピクセル)、色の3要素(RGB) 「AI基礎」(第2回)、「プログラミング入門」(第4回) ・音声の符号化、周波数、標本化、量子化 「AI基礎」(第2回)
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数点型 「プログラミング入門」(第5回) ・変数、代入、四則演算、論理演算 「プログラミング入門」(第5回) ・配列、関数、引数、戻り値 「プログラミング入門」(第7・12回) ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成 「プログラミング入門」(第6・13回)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データ駆動型社会、Society 5.0 「情報リテラシー」(第3・8回)、「データサイエンス2」(第2回) ・データサイエンス活用事例「情報リテラシー」(第3・8回)、「データサイエンス2」(第2回)
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル 「情報リテラシー」(第4・5・6・7・9・10・11回)、「データサイエンス2」(第12・13・14回)、「データサイエンス4」(第5・10回)
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ 「AI基礎」(第1回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス 「AI基礎」(第1回) ・ビッグデータ活用事例「AI基礎」(第1回) ・人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ 「AI基礎」(第1回) ・ソーシャルメディアデータ 「AI基礎」(第1回) ・データガバナンス 「AI基礎」(第1回) ・コンピューターの構成、動作、性能 「AI基礎」(第1回)
	3-1	・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム 「AI基礎」(第5回) ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI) 「AI基礎」(第5回) ・フレーム問題、シンボルグラウンディング問題 「AI基礎」(第5回) ・人間の知的活動とAI技術 「AI基礎」(第5回) ・AI技術の活用領域の広がり 「AI基礎」(第5回)
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性 「AI基礎」(第6回)、「データサイエンス4」(第9回) ・プライバシー保護、個人情報取り扱い 「AI基礎」(第6回)、「データサイエンス4」(第9回) ・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性、AIの安全性 「AI基礎」(第6回)、「データサイエンス4」(第9回)
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展 「AI基礎」(第7・8回) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習 「AI基礎」(第7・8回)、「データサイエンス4」(第1回) ・学習データと検証データ 「AI基礎」(第7・8回) ・ホールドアウト法、交差検証法 「AI基礎」(第7・8回) ・過学習、バイアス 「AI基礎」(第7・8回)
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新 「AI基礎」(第9・10回)、「データサイエンス4」(第6回) ・ニューラルネットワークの原理 「AI基礎」(第9・10回) ・ディープニューラルネットワーク(DNN) 「AI基礎」(第9・10回)、「データサイエンス4」(第6回) ・学習用データと学習済みモデル 「AI基礎」(第9・10回) ・畳み込みニューラルネットワーク(CNN) 「AI基礎」(第9・10回)
	3-5	・実世界で進む生成AIの応用と革新 「AI基礎」(第11回)、「データサイエンス4」(第1回) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル 「AI基礎」(第11・13回)、「データサイエンス4」(第2・3・4回) ・生成AIの留意事項 「AI基礎」(第11・13回)、「データサイエンス4」(第9回) ・マルチモーダル 「AI基礎」(第11回)、「データサイエンス4」(第2・3・4・5回) ・プロンプトエンジニアリング 「AI基礎」(第11・13回)、「データサイエンス4」(第7・8回) ・ファインチューニング 「AI基礎」(第11・13回) ・Transformer、注意機構、自己教師あり学習 「AI基礎」(第11・13回) ・Vision Transformer、CLIP 「AI基礎」(第11回) ・スケールング則 「AI基礎」(第11回)
	3-10	・AIの学習と推論、評価、再学習 「AI基礎」(第14・15回) ・AIの開発環境と実行環境 「AI基礎」(第14・15回)、「データサイエンス4」(第2回) ・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み 「AI基礎」(第14・15回)、「データサイエンス4」(第10・11・15回) ・複数のAI技術を活用したシステム 「AI基礎」(第14・15回)、「データサイエンス4」(第10・11・15回)

(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	・画像の符号化、画素(ピクセル)、色の3要素(RGB)「AI基礎」(第2回)、「プログラミング入門」(第4回) ・データの圧縮と効率化「AI基礎」(第2回) ・文字型、整数型、浮動小数点型「プログラミング入門」(第5回) ・変数、代入、四則演算、論理演算「プログラミング入門」(第5回) ・配列、関数、引数、戻り値「プログラミング入門」(第7・12回) ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング入門」(第6・13回)
	II	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「情報リテラシー」(第4・5・6・7・9・10・11回)、「データサイエンス2」(第12・13・14回)、「データサイエンス4」(第5・10回) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AI基礎」(第7・8回)、「データサイエンス4」(第1回) ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「AI基礎」(第9・10回)、「データサイエンス4」(第6回) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「AI基礎」(第11・13回)、「データサイエンス4」(第2・3・4回) ・プロンプトエンジニアリング「AI基礎」(第11・13回)、「データサイエンス4」(第7・8回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会・組織・個人の課題発見と解決のために、データサイエンス・AIを有効かつ安全に活用するための以下の能力と態度を身に付けることができる。

(1)データの収集・分析を通じて課題を発見し、解決策を構想・表現する力

(2)課題に応じて適切なAI技術を選択・活用し、解決のための仕組みを構築する力

(3)データサイエンス・AIについて、生涯にわたって主体的に学び続ける態度

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

- ①プログラム開設年度 令和6年度(和暦)
- ②大学等全体の男女別学生数 男性 1311人 女性 1052人 (合計 2363人)
- (令和6年5月1日時点)
- ③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済経営学部	991	270	1,148	77	0											77	7%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	991	270	1,148	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	7%

様式3

大学等名 北陸大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 132 人 (非常勤) 86 人

② プログラムの授業を教えている教員数 10 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 鈴木大助 (役職名) 経済経営学部教務委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
経済経営学部教務委員会
(責任者名) 鈴木大助 (役職名) 経済経営学部教務委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

経済経営学部教務委員会規程

⑥ 体制の目的

北陸大学では、全学的な教育編成の方針及び教育の質保証や質的向上に関する事項について審議し、学長に意見を述べることを目的として、全学教務委員会を設置している。この委員会で決定された方針等に基づき、経済経営学部教務委員会では、学部における教育プログラムの設計、実施、改善を行っている。「北陸大学データサイエンス・AI応用基礎プログラム(経済経営学部)」(以下「本プログラム」)は、既存の「北陸大学データサイエンス・AI教育プログラム」をさらに発展させた上位プログラムとして開始されており、学生が自身の専門分野における問題を発見・解決するために、データサイエンスやAIを道具として活用できる能力を育成することを目指している。本プログラムの円滑な実施と運営を確保するため、経済経営学部教務委員会は、実施計画の策定や修了証の発行などの運営に関する事項を担当するとともに、自己点検・評価の実施及び改善策の検討等も行い、教育の質的向上を継続的に追求する。

⑦ 具体的な構成員

鈴木 大助	経済経営学部教務委員長/経済経営学部マネジメント学科長・教授
志田 義寧	経済経営学部経済学科長・教授
丸山 洋三	経済経営学部マネジメント学科・准教授
斎藤 英明	経済経営学部経済学科・准教授
佃 貴弘	経済経営学部経済学科・准教授
篠原 史成	経済経営学部マネジメント学科・講師
館野 浩司	経済経営学部マネジメント学科・講師(プログラム担当者)
田部田 晋	経済経営学部経済学科・講師(プログラム担当者)
江口 美保	事務局・教学支援センター長
松本 明子	事務局・教務課長
池田 真由美	事務局・教務課長補佐
伊勢 康平	事務局・教務課主任
大田 雅美	事務局・教務課職員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	7%	令和7年度予定	15%	令和8年度予定	23%
令和9年度予定	30%	令和10年度予定	32%	収容定員(名)	1,148
具体的な計画					
2024(令和6)年度入学生から開始した本プログラムでは、「情報リテラシー」を1年次の必修科目として開講し、「AI基礎」を1年次の履修指定科目としている。 履修ガイダンスでの周知に加え、「情報リテラシー」や「AI基礎」をわかりやすく、学びやすい授業とすることで、この分野への関心を高め、プログラムを履修する学生を増やしたいと考えている。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムは経済経営学部生を対象としているが、他学部の学生も受講可能にするため、以下の取り組みを行っている。 ・副専攻プログラムの取り扱いを明確にするため、各学部の履修細則を改訂した。 ・本プログラムを全学の副専攻プログラムとして開講している。 ・本プログラム構成科目のうち、リテラシーレベルプログラムにも含まれる科目については、全学部・全学科でそれぞれ開講しており、希望する学生全員が受講可能である。クラスサイズ等に応じて、所定の研修を受講したスチューデント・アシスタント(SA)を配置し、学習支援体制を整えている。 ・リテラシーレベルプログラムに含まれない構成科目については、遠隔(オンデマンド)で実施することで履修の便宜を図っている。さらに、他学部の必修科目等と授業時間が重ならないよう、時間割の調整も行っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムでは、以下の周知方法及び取り組みを行っている。 ・学期毎の教務ガイダンスにおいて、周知している。 ・データサイエンス・AI活用能力を専門知識・技能を構成する重要な要素と捉えているため、本プログラム構成科目はすべて経済経営学部の専門教育科目群に位置付けている。これにより、プログラムの履修を通じて修得した単位は、卒業要件である専門教育科目群の単位として認定され、学生の履修動機の向上にも資する設計となっている。
--

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムでは、以下のサポート体制を構築し、実施している。

- ・本プログラム構成科目のうち、リテラシーレベルプログラムにも含まれる科目については、全学部・全学科でそれぞれ開講しており、希望する本学学生全員が受講可能である。クラスサイズ等に応じて、所定の研修を受講したスチューデント・アシスタント(SA)を配置し、学習支援体制を整えている。
- ・リテラシーレベルプログラムに含まれない構成科目については、遠隔(オンデマンド)で実施することで履修の便宜を図っている。さらに、他学部の必修科目等と授業時間が重ならないよう、時間割の調整も行っている。
- ・受講生からの質問にはMicrosoft Teamsやmanabaで随時対応しているほか、各授業担当教員が週2回設けているオフィスアワーにおいて、対面での質問対応も行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

学習指導方法や質問を受け付ける仕組みは、以下のとおりである。

- ・プログラム構成科目を担当する教員のオフィスアワーで質問を受け付ける。
- ・「情報リテラシー」では、15回の授業時間以外に、スチューデント・アシスタント(SA)と担当教員グループによるサポート回を対面にて別途設定し、学修支援体制の充実に努めている。
- ・Microsoft Teamsやmanabaでの質問は随時受け付けている。
- ・情報推進課の窓口に常時「ヘルプデスク」を開設し、学生アルバイトとともに技術的な質問対応やノートPC修理時の貸出対応を行っている。

大学等名 北陸大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

経済経営学部教務委員会
（責任者名） 鈴木 大助
（役職名） 経済経営学部教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																				
学内からの視点																					
プログラムの履修・修得状況	北陸大学データサイエンス・AI応用基礎プログラム（経済経営学部）は、経済経営学部において、「北陸大学データサイエンス・AI教育プログラム」の情報リテラシー科目と統計学入門科目を含む、6科目・12単位を修得した学生に対し修了証としてオープンバッジを発行するものである。プログラム開始初年度である2024（令和6）年度は、「情報リテラシー（必修科目）」、「AI基礎（履修指定科目）」及び「プログラミング入門（選択科目）」として開講した。本プログラムは、複数年プログラムとなっており、2025（令和7）年度に「データサイエンス2（履修指定科目）」「データサイエンスのための数学（選択科目）」、2026年度（令和8）年度に「データサイエンス4」を開講することとしている。 2024（令和6）年度の履修・修得状況は以下のとおりである。 ※ 2024（令和6）年度において「データサイエンス2」「データサイエンスのための数学」「データサイエンス4」は未開講 <table><tr><th>科目名</th><th>履修者数</th><th>履修率</th><th>修得者数</th><th>修得率</th></tr><tr><td>情報リテラシー</td><td>203人</td><td>98.50%</td><td>179人</td><td>88.20%</td></tr><tr><td>A I 基礎</td><td>205人</td><td>99.50%</td><td>140人</td><td>68.30%</td></tr><tr><td>プログラミング入門</td><td>77人</td><td>37.60%</td><td>63人</td><td>81.80%</td></tr></table>	科目名	履修者数	履修率	修得者数	修得率	情報リテラシー	203人	98.50%	179人	88.20%	A I 基礎	205人	99.50%	140人	68.30%	プログラミング入門	77人	37.60%	63人	81.80%
科目名	履修者数	履修率	修得者数	修得率																	
情報リテラシー	203人	98.50%	179人	88.20%																	
A I 基礎	205人	99.50%	140人	68.30%																	
プログラミング入門	77人	37.60%	63人	81.80%																	
学修成果	本学のデータサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）にも含まれる科目「情報リテラシー」においては、Salesforce社のビジュアル分析ツールである Tableau を採用しており、学修アンケートでは「Tableau セクションに意欲的に取り組んだ」という設問において「とてもあてはまる」、「あてはまる」と回答した割合は96.7%と昨年度の94.0%から更に増加した。「Tableau セクションに満足した」という設問においては90.7%となっている。これらを踏まえ、データサイエンスに主体的に取り組む姿勢が高くなったと評価できる。また、情報リテラシー科目の単位を修得した学生有志が、学外のコンテスト「Tableau 分析 AWARD 2024」に出場して審査員から高く評価された。また90日間の学習が必要となる社会人でも認定されるのが非常に困難だといわれている「DATA Saber」に3名の学生が認定された。これらの活躍を受け、非常に名誉なことに米国 Salesforce から Tableau Academic Ambassador に学生4名、教員1名が選出された。 この科目の他、北陸大学データサイエンス・AI応用基礎プログラム（経済経営学部）の科目群について、学修アンケートから学修成果を見てみると、学修目標の達成度についての学生による自己評価が7割を超えるものの割合は、「情報リテラシー」70.4%、「AI基礎」56.6%、「プログラミング入門」69.5%であった。また、履修について満足した（「強そう思う」または「そう思う」）ものの割合は、「情報リテラシー」81.1%、「AI基礎」63.9%、「プログラミング入門」78.0%であった。学修アンケートには他学生への推奨度を問う項目を設けていないが、自由記述欄には、「この後も AI について引き続き学んでいきたい」という趣旨の前向きな回答が記述されており、一定の満足度と関心の高さがうかがえる。																				
学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度	「情報リテラシー」では、担当教員とSA（チューデント・アシスタント）によるミーティングを週1回実施し、そこで出た意見を授業教材及び運営に随時反映させている。このように、学生の理解度を高める工夫・改善に努めている。 「AI基礎」では、最終課題レポートとして、授業で学んだAI技術を応用し身近な問題を解決するための方策をプレゼンテーションさせた。その結果、今まで学んだことを自分たち自身の問題に引きつけて、より有機的なつながりを持って捉えられるようになり、さらには社会との関わりを持つということが実感できるようになった。また、引き続きAIについて学び続けていきたいという意欲の向上にもつながったという趣旨の回答も得られた。 「プログラミング入門」では、2024（令和6）は HTML、CSS、JavaScript による Web プログラミングを題材とし、視覚的にわかりやすいアプリ作成に取り組んだ。学生からは独学では難しいプログラミングができるようになった、楽しみながら達成感が得られた、プログラムの仕組みが理解できるようになった、難しいことにも最後まで取り組む力が身についた、もっと学びたいなどの感想が得られ、より高い段階への学びへの橋渡しができた。																				
学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度	「情報リテラシー」は全学部・学科で必修科目であることから、授業内アンケートにおいて後輩学生への推奨といった設問を設定していないが、「今後もデータ分析について学びたい」という設問では「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した割合76.5%、「将来の仕事においてデータ分析を活用したい」という設問では71.6%、「データ分析を仕事にしたい」という設問では48.5%と、3年連続で非常に高い割合となっている。 学修アンケートには他学生への推奨度を問う項目を設けていないが、「AI基礎」の受講学生からは、「情報リテラシー」と同様に「この後も AI について引き続き学んでいきたい」という趣旨の前向きな感想が得られており、一定の満足度と関心の高さがうかがえる。 2026年度（令和8）年度に「データサイエンス4」が開講された際には、後輩学生等他の学生への推奨度についてもアンケート調査する予定である。																				
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2024（令和6）年度入学生から開始した本プログラムでは、「情報リテラシー」を1年次の必修科目として開講し、「AI基礎」を1年次の履修指定科目としている。 履修ガイダンスでの周知に加え、「情報リテラシー」や「AI基礎」をわかりやすく、学びやすい授業とすることで、この分野への関心を高め、プログラムを履修する学生を増やしたいと考えている。																				

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは、2024(令和6)年度に開始し、本プログラムを修了した卒業生の輩出は2027(令和9)年度となる。そのため、本プログラム修了者の進路調査や活躍状況、企業からの評価は実施していない。具体的な評価方法については、今後検討を行う。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムは、2024(令和6)年度に開始したばかりであるが、そこに含まれるリテラシーレベルのカリキュラムは、他大学等の規範となりステークホルダーから支持される先導的で独自の工夫・特色があるプログラムとしてプラス選定されている。プラス選定における評価ポイントは「先導的な取組を実施、文系・理系を問わず学生の学習意欲の向上を図っている」ことで、ソースコードを要さないノーコードツールの採用、教室内反転学習の実施、分析コンペティションの開催、連携企業との授業実施を通じて学生講評や表彰の実施、キャンパス内売店の販売データを分析、オープンエデュケーション教材の公開、の6項目が挙げられている。 また、リテラシーレベルのカリキュラムについて、2024(令和6)年度ではヒューマンネットワーク高専、第14回 Tableau 大学ユーザー会、Japan Tableau User Group 総会等において本プログラムの紹介を行い、他に類例のない教育を実践しているという意見を得ることができた。また日本私立大学協会の機関紙である教育学術新聞において「北陸大学リテラシーレベルプラスに選定された DS 教育」という記事が、また公益社団法人私立大学情報教育協会の機関誌『大学教育と情報』において「北陸大学のデータサイエンス・AI 教育プログラム」という記事が掲載された。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムが包含するリテラシーレベルの科目「情報リテラシー」において、学修アンケートでは、「あなたは、この授業を履修して満足しましたか」という設問に「強くそう思う」「そう思う」と回答した割合は 81.1% であり、数理・データサイエンス・AI への「学ぶ楽しさ」「学ぶ意義」を理解させることは、一定程度達成することができた。これは使いやすい Tableau をツールとして選定したこと、売店の実データや大学で実施した学生調査アンケートの匿名データを活用することで、学生生活における身近なテーマを設定し、授業設計を行ったことによるものと考えられる。AI に関しては Google の Teachable Machine を用いた教師あり学習のグループ演習を行うことで、実践的に理解を深める設計としている。加えて、受講生の質問に対し、担当教員及び SA が丁寧に回答を行うとともに、操作部分の演習については動画を作成していつでもそれを見ながら取り組めるように工夫している。 また株式会社 NTT データ北陸と、北陸 Tableau ユーザーグループを立ち上げ、2024 年3月から5 回のユーザー会を開催した。ユーザー会において学生が活躍する社会人と交流することで、データサイエンスを学ぶことの楽しさや、その意義を直接体験することができている。 リテラシーレベル部分に含まれない科目「AI基礎」においても、実習では、実際の最新データを用いることで、学生がより身近に学びの意義を実感できるよう工夫している。また、最新の手法やライブラリを取り入れることで、今後も学生自身が主体的に学び続ける力を育むことを目指している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	学生数が多い科目については複数クラスを開講する等、1クラスのサイズを適正に設定し、授業を展開している。複数クラス開講の科目においては、授業内容に一貫性を持たせ、クラス間で内容や水準に齟齬が生じないよう、密に担当教員間で連絡をとり、SAが配属される科目においては、週1回の担当教員と SA によるミーティングを実施し、そこで出た意見を授業教材や授業運営に随時反映し、より「分かりやすい」授業を実施している。 学修アンケートの結果や学生の学修到達度をふまえ、2025(令和7)年度から、データエンジニアリングに関する内容の一部を「AI基礎」から「プログラミング入門」に移行する。これにより、「AI基礎」の実習時間を十分に確保するとともに、「プログラミング入門」でデータエンジニアリングの実習も扱い、データ・AIの実践的な活用能力を一層強化する構成へと見直しを行っている。さらに、社会の変化や生成AIをはじめとする技術の発展を踏まえ、最新の事例、および、手法・ライブラリを積極的に演習に取り入れ、教育内容の継続的な見直しと向上に努めている。

科目名	情報リテラシー Aクラス				ナンバリングコード	DAI101	
配当年次	1	開講期	2024年度 前期	授業方法分類	講義	科目分類	必修
単位数	2.0	担当教員名	田尻 慎太郎			所属	経済経営学部
授業の目的と概要	【目的】 「情報リテラシー」とは、大学での学修や社会で仕事を行う際に必要となるPCの操作方法に関するスキルであるとともに、PCやネット上の情報を活用、分析できる力（情報収集→情報分析→課題発見→構想→表現）のことである。 【概要】 本科目では、そのような「情報リテラシー」を身につけるために、PC本体やソフトウェア、インターネットに関する基本的な概念や操作方法を、実際にPCを操作しながら理解に努める。 北陸大学では2022年度から「北陸大学データサイエンス・AI教育プログラム」を開始し、各学部学科に設置された情報リテラシー科目と統計学入門科目の両方に合格すると、オープンバッジによる修了証が授与される。 【特徴】 本授業では、世界No.1のCRM企業であるセールスフォース社と連携し、ビジネスデータ分析ツールとして最もよく利用されているTableau Desktopを用いた学習や演習を実施する。 授業内に全学部学科の情報リテラシー科目履修者を対象に実施する「Tableau分析コンペティション」では、太陽が丘キャンパスのカフェテリアの運営企業（株式会社太陽アソシエイツ）から売上げデータの提供を受け、新型コロナウィルスによるビジネス環境の変化といった課題についての分析を行う。 授業では佐藤豊氏（前セールスフォース・ジャパン株式会社執行役員 Tableau統括カンントリーマネージャー）と、津久井浩太郎氏（ヴェルク株式会社取締役）によるビデオ講演 を実施する。 カリキュラムマップ						
到達目標	1. PCの仕組みを理解し、基本的なPCの操作ができる。 2. レポート作成やコミュニケーションに問題がない程度のタッチタイピングができる。 3. クラウドの仕組みを理解し、WordやExcel、PowerPointなどを活用した情報共有、共同編集ができる。 4. 情報モラルと情報セキュリティのリスクを理解し、マナーを守ってインターネットを利用できる。 5. データを用いた可視化や分析をし、発表資料を作成できる。						
準備学習（予習・復習等）	課題はその都度指示する。 課題はすべてLMSに提出し、自身の課題提出状況を把握できるようにする。 毎週平均1時間の時間外学習が必要となる。						
授業方法	・ 授業は教室で実施する ・ 授業資料の配付、課題の提出、質問はMicrosoft Teamsを用いる。 ・ サポート役のSA（スチューデント・アシスタント）がいるので、質問がしやすい。 ・ 授業時間前にノートPCを必ず充電しておくこと。 ・ ノートPCが修理中や忘れた場合は、2号館2階の情報推進課で貸出ノートPCを借りてきて受講すること ・ グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、ピアレスポンスなどのアクティブラーニングを取り入れた授業が中心となる。 ・ 適宜、オープンに公開されている教材を利用する						
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（%）】	①各回の提出課題（40点） ②ユニット課題(10点×3回) ③最終課題（20点） ④タイピング（10点）	評価項目の具体的内容	①授業内で作成する小課題等の提出によって評価する。授業時間内に終わらない場合は宿題とする。 ②ユニットごとに設定される課題を評価基準にもとづいて評価する。 ③最終レポート課題を評価基準にもとづいて評価する。 ④タイピングテストの得点にもとづいて評価する 課題はなるべく自動採点し、翌週の授業でフィードバックを行う。				
実務経験のある教員による授業科目							
履修条件・受講生へのアドバイス	・ 教材の配布や課題の提出は、すべてMicrosoft Teamsで行う。 ・ 課題の提出はTeamsの課題機能を用いる。それ以外の方法での提出は認めない。 ・ 可能な場合は各回の授業を録画し、授業後にTeamsで視聴できるようにする。 ・ 授業出席の時間厳守、課題提出の締め切り時間厳守を徹底すること。						

他の科目との関連	・北陸大学では基礎ゼミナールをはじめ、多くの授業でノートPCを活用する。本授業は、大学の授業の基礎となるデジタル時代の「筆記用具」をマスターするための授業である。 ・「北陸大学データサイエンス・AI教育プログラム」を構成する2科目のうちの1科目である。2科目とも合格すると修了証を授与される。 ・北陸大学生として4年間必要となる情報リテラシーをこの授業で身につける。他の授業は、それが身につけているものとして今後実施されていく。他の授業でシステムを使うのにいちいち説明はされないの、この授業でしっかりと身につけること。
教科書	なし。オリジナル教材を毎回使用します。
参考書・参考文献	なし
授業計画 (第1回)	情報ガイダンスの補足 ・ノートPC基本操作 ・タッチタイピング ・情報リテラシーアンケートの実施
授業計画 (第2回)	Gmailの使い方 Teamsの使い方 Tableau Desktopのインストール
授業計画 (第3回)	Wordによるミニレポートの作成 学内での印刷 【データサイエンス・セクション】 佐藤豊氏（前Tableau Japanカントリーマネージャー）によるビデオ講演 「「データ時代：Data People is Everyone」」
授業計画 (第4回)	ミニフィールドワークの結果をPowerPointで共同編集 【データサイエンス・セクション】 Tableau演習① 1. Tableau Desktopの起動 2. データソースへの接続 3. 基本操作
授業計画 (第5回)	ノートPCの設定確認 クラウドドライブの設定 【データサイエンス・セクション】 Tableau演習② 4. 時系列データの可視化と二重軸
授業計画 (第6回)	情報モラル 情報セキュリティ 【データサイエンス・セクション】 Tableau演習③ 5. クロス集計と表計算 6. 地図表現
授業計画 (第7回)	AIとは何か AIの留意事項 AI体験 【データサイエンス・セクション】 Tableau演習④ 7. 散布図 8. ダッシュボード、ストーリーの作成 Tableau分析コンペティション課題発表
授業計画 (第8回)	50%アンケートフォームの作成 【データサイエンス・セクション】 ・津久井浩太郎氏によるビデオ講演（ヴェルク株式会社）
授業計画 (第9回)	クラス内世論調査アンケートフォームの作成 【データサイエンス・セクション】 ・Tableau分析コンペティション グループレビュー
授業計画 (第10回)	世論調査アンケートデータの分析 【データサイエンス・セクション】 ・Tableau分析コンペティション 最終発表
授業計画 (第11回)	世論調査分析結果の発表資料をPowerPointで作成

授業計画 (第 1 2 回)	Excelによるタイピングデータの分析① 【データサイエンス・セクション】 Tableau分析コンペティション表彰式
授業計画 (第 1 3 回)	Excelによるタイピングデータの分析②
授業計画 (第 1 4 回)	Wordを用いたデータ分析レポートの作成（最終課題）
授業計画 (第 1 5 回)	・タイピング分析レポート（最終課題）のピアレビュー ・タイピング最終テスト
授業計画 (第 1 6 回)	

科目名	プログラミング入門 Aクラス				ナンバリングコード	DAI102		
配当年次	1	開講期	2024年度 前期		授業方法分類	講義	科目分類	選択
単位数	2.0	担当教員名	鈴木 大助				所属	経済経営学部
授業の目的と概要	【目的】我々が日常的に利用しているスマートフォンアプリやPCソフトは言うに及ばず、AIと称される多くのものも、すべて、プログラミングという行為によって作られるプログラムである。 本科目は、インターネット上のサービスと連携して各自のスマートフォンで動作するアプリの開発体験を通じて、①プログラミングがどのような行為なのかを身をもって知り、②コンピュータへの命令がどのように書かれているかを学び、③手元のプログラムとインターネット上のコンピュータがどのように連携しているかを理解することを目的とする。 【概要】各自が保有するノートPCを用いて、クラウド開発環境のMonacaにおいて、HTML,CSS,JavaScriptによるアプリ開発を行い、動作検証は各自が保有するスマートフォンで行う。 本科目は社会の一員として必要な基本的なITの知識と技能を身につけ、マネジメント関連分野に位置づけられたITの専門知識と技能を身につけるための基礎を築くとともに、課題や解決策を見出し、論理的に表現する力を身につけるための一科目である。本科目のカリキュラムにおける位置づけはカリキュラムマップを参照されたい。							
到達目標	1. 自分のスマートフォンで動作するアプリを見よう見まねでもいいので完成させることができる 2. 書かれているプログラムの意味を調べながらでもいいので説明できる 3. HTTP通信の仕組みと通信内容について調べながらでもいいので説明できる							
準備学習（予習・復習等）	予習：講義動画を視聴し、理解する。【時間の目安 2時間程度】 復習：解決できるまで演習課題に取り組む。学習内容を自分の言葉でまとめる。【時間の目安 2時間程度】							
授業方法	本科目は遠隔授業で実施する。manabaコースニュースやTeamsのメッセージを見逃さないように注意すること。基本的には以下の①から③の授業サイクルを繰り返す。 ①授業前：manabaを通じて配信される講義動画をあらかじめ視聴する。 ②授業中：各自演習に取り組む。Teamsやmanabaを通じて、受講生同士の相談、教員によるフィードバックを行う。 ③授業後：課題を完成させmanabaに提出する。学習内容を自分の言葉でまとめてミニッツペーパーとしてmanabaに提出する。							
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（％）】	演習取り組み.....60％ 小テスト.....40％		評価項目の具体的内容		演習取り組みの証拠として、プログラムソースコードやスクリーンショット等をmanabaへ提出することをほぼ毎回求める。演習課題の提出締切は次回授業日の授業開始時刻とする。遅延提出は認めない。フィードバックは当該授業時間中にmanabaやTeamsを通じて行う。 小テストでは、授業で行った行為の意味や、書かれているプログラムの意味、HTTP通信について問う問題を出題する。			
実務経験のある教員による授業科目	該当しない							
履修条件・受講生へのアドバイス	自分で手を動かして開発する体験が大切である。ちゃんとプログラムを書いたのに動かない、と簡単に言っても、命令の綴りを間違えていたり、小文字で書くところを大文字で書いていたり、開き括弧と閉じ括弧が対応していなかったり、そもそもプログラムをちゃんと保存していなかったり、その原因はいろいろである。 動かない原因を自分で突き止めて修正する、いわゆるデバッグはプログラミングにおいて必須の行為である。命令の意味を理解して、自分が書いているプログラムの構造を理解して、開発環境が教えてくれるエラーのヒントを読んで、頑張ってデバッグをして欲しい。 授業の資料や授業動画を第三者に提供及び配信・公開することは、著作権法上不当な行為となるので、ルールを厳守すること。							
他の科目との関連	データサイエンス・AI応用基礎プログラム（データサイエンス・AI副専攻プログラム）の1科目である。							
教科書	なし							
参考書・参考文献	アシアル株式会社, Monacaで学ぶはじめてのプログラミング～モバイルアプリ入門編～, アシアル株式会社, (2016). 桜庭 洋之, 望月 幸太郎, スラスラわかるJavaScript 新版, 翔泳社, (2022).							
授業計画（第1回）	導入							

授業計画 (第 2 回)	開発環境の整備検証
授業計画 (第 3 回)	HTML
授業計画 (第 4 回)	CSS
授業計画 (第 5 回)	JavaScript入門
授業計画 (第 6 回)	条件分岐
授業計画 (第 7 回)	関数
授業計画 (第 8 回)	イベント
授業計画 (第 9 回)	DOM
授業計画 (第 10 回)	フォーム
授業計画 (第 11 回)	いろいろな演算子
授業計画 (第 12 回)	配列
授業計画 (第 13 回)	繰り返し
授業計画 (第 14 回)	ジオロケーションAPIとGPS機能の利用
授業計画 (第 15 回)	小テスト（授業時間内にのみ解答可）
授業計画 (第 16 回)	

科目名	AI基礎 Aクラス				ナンバリングコード	DAI103	
配当年次	1	開講期	2024年度 後期	授業方法分類	講義	科目分類	履修指定
単位数	2.0	担当教員名	鈴木 大助			所属	経済経営学部
授業の目的と概要	【目的】本授業は、社会・組織・個人の問題解決のためにAIを有効かつ安全に活用する能力の基礎を身につけるべく、①AIの概要とその仕組みについて理解すること、②AIの進展による社会の変化と個人への影響について理解すること、③AI技術について生涯にわたって学び考え続ける態度を身につけること、を目的とする。 【概要】ビッグデータとデータエンジニアリング、データ表現、データの収集と加工、データベース、ITセキュリティ、AIの歴史と応用分野、AIと社会、機械学習の基礎と展望、深層学習の基礎と展望、生成AI、認識、予測・判断、言語・知識、身体・運動、AIの構築と運用等のテーマについて、講義、問題演習、個人所有PCを使った実習を通じて学ぶ。 本科目は、データサイエンス・AI応用基礎プログラムの1科目である。AIの活用は組織の問題解決・マネジメントにおける重要課題である。本科目は社会の一員として必要な、基礎的なデータエンジニアリング・AIの知識と技能を身につけ、AIを問題解決に活用するための基礎を築く科目である。本科目のカリキュラムにおける位置づけはカリキュラムマップを参照されたい。						
到達目標	1. ビッグデータの活用事例を挙げて、自分の考えを述べることができる。 2. 構造化データと非構造化データの違いを説明できる。 3. Webからデータを収集・加工する基礎的な処理ができる。 4. 暗号と認証が利用されている具体的な社会事例を挙げて、自分の考えを述べることができる。 5. AIの歴史とAI技術の活用領域の広がりをふまえ、具体例を挙げて自分の考えを述べることができる。 6. AIが社会に受容されるために考慮すべき事項を挙げて、自分の考えを述べることができる。 7. 機械学習の基本的な枠組みを理解した上で、タスクに対する適切な手法を選ぶことができる。 8. 深層学習のおおまかな仕組みを理解した上で、タスクに対する適切な手法を選ぶことができる。 9. 生成AIのおおまかな仕組みを理解した上で、適切に活用することができる。 10. 画像・動画・音声・言語のいずれかに対するAIを活用した簡単な処理を実行できる。						
準備学習 （予習・復習等）	予習：講義動画を視聴し、理解する。【時間の目安 2時間程度】 復習：学習内容を自分の言葉でまとめる。解決できるまで課題に取り組む。【時間の目安 2時間程度】						
授業方法	本科目は遠隔授業で実施する。manabaコースニュースやTeamsのメッセージを見逃さないように注意すること。基本的には以下の①から③の授業サイクルを繰り返す。 ①授業前：manabaを通じて配信される講義動画をあらかじめ視聴する。 ②授業中：各自演習に取り組む。Teamsやmanabaを通じて、受講生同士の相談、教員によるフィードバックを行う。 ③授業後：課題を完成させmanabaに提出する。学習内容を自分の言葉でまとめてミニツツペーパーとしてmanabaに提出する。						
成績評価の基準・方法 【評価項目】【割合（%）】	ミニツツペーパー：20% 課題：40% 小テスト：40%	評価項目の 具体的内容	ミニツツペーパー：講義動画を視聴し、理解したこと等について各自の言葉で記述することを毎回求める。提出締切は次回授業日の授業開始時刻とする。遅延提出は認めない。ミニツツペーパーは出席確認も兼ねる。 課題：データエンジニアリング、AIの各テーマに関して、問題演習、実習、あるいはレポートを課す。成果物はmanabaへ提出することを求める。提出締切は次回授業日の授業開始時刻とする。遅延提出は認めない。フィードバックはmanabaやTeamsを通じて行う。 小テスト：データエンジニアリング、AIの各テーマに関して小テストを課す。 ※公欠の場合であっても、評価を受けるためにはミニツツペーパー・課題・小テストの提出が必要である。未提出分は評価対象外となる。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない						
履修条件・ 受講生への アドバイス	授業資料に出てくる技術用語の意味を参考書やGoogle等で確認し、理解・記憶しようと常に努めること。演習で行っている行為の意味を自分なりに他者に説明できるように努めること。 一回でも欠席すると授業内容が理解できなくなるので、理由なく欠席しないこと。欠席した場合はmana						

	baに掲載されている当該回の資料を読み、必要な課題に取り組んだ上で、次の回の授業に出席すること。 manabaコースニュースやTeamsのメッセージを見逃さないように注意すること。 授業の資料や授業動画を第三者に提供及び配信・公開することは、著作権法上不当な行為となるので、ルールを厳守すること。
他の科目との関連	データサイエンス・AI応用基礎プログラム（データサイエンス・AI副専攻プログラム）の1科目である。
教科書	特になし
参考書・参考文献	北川源四郎／竹村彰通・編: 応用基礎としてのデータサイエンス AI×データ活用の実践, 講談社 (2023/2/16). 総務省: 令和5年版情報通信白書, Kindle版, 日経印刷株式会社 (2023/7/5). 野村総合研究所IT基盤技術戦略室, NRIセキュアテクノロジーズ: ITロードマップ 2024年版: 情報通信技術は5年後こう変わる!, 東洋経済新報社 (2024/3/20). 富士通エフ・オー・エム株式会社: よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集, FOM出版 (2024/1/31).
授業計画 (第1回)	DE1: ビッグデータとデータエンジニアリング ICT（情報通信技術）の進展とビッグデータについて学ぶ
授業計画 (第2回)	DE2: データ表現 コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を学ぶ
授業計画 (第3回)	DE3: データ収集と加工、データベース Webサイト等からのデータ収集方法・加工方法・抽出方法を学ぶ
授業計画 (第4回)	DE4: ITセキュリティ データ・AI利用に必要なITセキュリティの基礎を学ぶ
授業計画 (第5回)	AI1: AIの歴史と応用分野 AIの歴史と活用領域の広がりについて学ぶ
授業計画 (第6回)	AI2: AIと社会 AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点について学ぶ
授業計画 (第7回)	AI3: 機械学習の基礎と展望(1/2) 機械学習の基本的な概念と手法について学ぶ
授業計画 (第8回)	AI4: 機械学習の基礎と展望(2/2) 機械学習の基本的な概念と手法について学ぶ
授業計画 (第9回)	AI5: 深層学習の基礎と展望(1/2) 実世界で進む深層学習の応用と革新について学ぶ
授業計画 (第10回)	AI6: 深層学習の基礎と展望(2/2) 実世界で進む深層学習の応用と革新について学ぶ
授業計画 (第11回)	AI7: 生成AI 生成AIの基本的な概念と応用について学ぶ
授業計画 (第12回)	AI8: ロボットとAI 人間の知的活動（身体・運動・認識）とAI技術について学ぶ
授業計画 (第13回)	AI9: 言語とAI 人間の知的活動（言語・知識）とAI技術について学ぶ
授業計画 (第14回)	AI10: AIの構築と運用 人間の知的活動（予測・判断）とAI技術、AIの構築と運用について学ぶ
授業計画 (第15回)	ふりかえり／小テスト
授業計画 (第16回)	

科目名	データサイエンス2 Aクラス				ナンバリングコード	DAI201	
配当年次	2	開講期	2025年度 前期	授業方法分類	講義(遠隔)	科目分類	履修指定
単位数	2.0	担当教員名	杉森 公一			所属	高等教育推進センター
授業の目的と概要	社会科学を含む諸科学では、調査・実験・観察から得たデータから必要な情報を引き出し、適切にまとめ、分析し課題解決をもたらすデータ・サイエンスの技法が一層重要不可欠となっている。 そこで前期「データサイエンス2（旧統計学I）」と後期「データサイエンス3（旧統計学II）」と一体的な構成をとり、簡単なデータの扱い方から各種多変量データの解析方法までを扱う。各種データをExcelとExploratoryを使って適切な方法で分析し、価値のある情報を発見できるようになることを目標とする。この目標のため、本講義は、数値の中から価値ある情報を引き出す統計学の具体的な考え方と方法をPC演習を通じて習得するように設計されている。本講義の対象は、統計学を全く知らない学生である。 カリキュラム・マップ						
到達目標	1. 平均や分散などの基本統計量を扱う記述統計をコンピュータで表示できる 2. 推測統計のメカニズムを理解し、各種検定をコンピュータを用いて実行できる 3. 単回帰分析、重回帰分析をコンピュータを用いて実施、結果を説明できる						
準備学習（予習・復習等）	予習： 指定された動画を視聴して、ミニクイズに回答する 復習： 毎回、ExcelとExploratoryを用いた演習課題に取り組んで、提出する						
授業方法	1. 教室で授業を行い、各自のノートPC（フル充電）を持参する 2. 授業開始時間になったら、解説動画と課題をTeams上にオープンする 3. 期末試験は実施しない						
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（%）】	1. 各回のミニクイズ（40%） 2. ExcelもしくはExploratoryの演習課題（40%） 3. 最終個人プロジェクト課題（20%）	評価項目の具体的内容	各評価項目の具体的な内容は以下の通りである。 1. 毎回、授業動画やPC演習を行い、それに関するクイズに回答する 2. ExcelとExploratoryを用いた課題に取り組み、ファイルを提出する 3. 個人プロジェクトの最終課題としてデータを用いて自由に分析したミニレポートを提出する 出席自体は評価には含まれないが、1/3以上欠席したものは科目を不合格とする				
実務経験のある教員による授業科目							
履修条件・受講生へのアドバイス	授業の受講、予習・復習のすべてにおいてノートPCを活用する。 週に一度、教員とSAによる対面でのサポートを教室で実施する						
他の科目との関連	後期「データサイエンス3」とセット科目になっている。 一通りのデータ分析技術を身につけ、今後の研究や卒業後のビジネスに活かすために、全員がデータサイエンス3を継続受講することを前提としている。						
教科書	使用しない 必要な資料はTeams上で別途配布する						
参考書・参考文献	必要があれば、別途配布する						
授業計画（第1回）	イントロダクション ・Exploratoryのインストール ・データの概要①						
授業計画（第2回）	Exploratoryの始め方 ・西田CEOビデオ講演（データの概要②）						
授業計画（第3回）	変数・尺度・データタイプ ・データ可視化の基礎 ・チャートタイプの選び方						
授業計画（第4回）	データのばらつきと相関 ・ロジカル型データを使った計算と可視化						

授業計画 (第5回)	データの加工 ・可視化のためのデータラングリング
授業計画 (第6回)	確率の基礎 ・確率、統計推論との違い ・確率的思考について
授業計画 (第7回)	統計的推論 ・不確実性の可視化 ・信頼区間とエラーバー
授業計画 (第8回)	仮説検定① ・平均値の差の検定 ・クラスカル・ウォリス検定
授業計画 (第9回)	仮説検定② ・カイ二乗検定
授業計画 (第10回)	線形回帰分析 ・線型回帰モデルの使い方と解釈
授業計画 (第11回)	多重共線性 ・予測モデルの変数選択
授業計画 (第12回)	オープンデータの活用① ・政府のオープンデータ e-statの活用
授業計画 (第13回)	オープンデータの活用② ・経済指標、株価、天気
授業計画 (第14回)	オープンデータの活用③ ・Prepper Open Data Bankの利用
授業計画 (第15回)	まとめ ・個人プロジェクト課題
授業計画 (第16回)	

科目名	データサイエンスのための数学				ナンバリングコード	DAI204	
配当年次	2	開講期	2025年度 後期	授業方法分類	講義(遠隔)	科目分類	選択
単位数	2.0	担当教員名	館野 浩司			所属	経済経営学部
授業の目的と概要	【目的】本授業は、AI（人工知能）・深層学習をはじめとする情報技術の仕組みを学び、社会・組織・個人の問題解決のためにAIを有効かつ安全に活用する能力の基礎を身につけるべく、①データ・AI活用に必要な確率統計、線形代数、微分積分の基礎を学ぶこと、②データ・AI活用に必要なアルゴリズムの基礎を学ぶこと、を目的とする。 カリキュラム・マップ 【概要】データ・AI活用に必要な確率論、統計学、線形代数学、微分積分学、およびアルゴリズムについて、講義、問題演習、個人所有PCを使った実習を通じて学ぶ。 本科目は、データサイエンス・AI応用基礎プログラムの1科目である。AIの活用は組織の問題解決・マネジメントにおける重要課題である。本科目は社会の一員として必要な、基礎的なデータエンジニアリング・AIの知識と技能を身につけ、AIを問題解決に活用するための基礎を築く科目である。本科目のカリキュラムにおける位置づけはカリキュラムマップを参照されたい。						
到達目標	1. 集合にまつわる記号の意味を理解・運用できる 2. 順列・組み合わせについて理解し、簡単な計算ができる 3. 条件付き確率について例を挙げて説明できる 4. 代表値、分散、標準偏差について理解し、簡単な計算ができる 5. 確率分布、確率密度分布の違いについて説明できる 6. 点推定、区間推定について説明できる 7. ベクトルと行列の和・差・スカラー倍、積の計算ができる 8. ベクトルの内積とノルムの説明および計算ができる 9. 関数の概念について説明できる 10. 指数関数・対数関数について実社会の例をもとに説明できる 11. 数値積分について説明できる 12. 数値微分について説明できる 13. 2変数の微分法と最大最小問題について説明ができる 14. 簡単なアルゴリズムを図によって適切に表現できる 15. アルゴリズムの優劣について例をあげて説明できる						
準備学習 （予習・復習等）	予習：講義動画を視聴し、理解する。【時間の目安 2時間程度】 復習：学習内容を自分の言葉でまとめる。解決できるまで課題に取り組む。【時間の目安 2時間程度】						
授業方法	本科目は遠隔授業で実施する。manabaコースニュースやTeamsのメッセージを見逃さないように注意すること。基本的には以下の①から③の授業サイクルを繰り返す。 ①授業前：manaba（Panopto）を通じて配信される講義動画をあらかじめ視聴する。 ②授業中：各自演習に取り組む。Teamsやmanabaを通じて、受講生同士の相談、教員によるフィードバックを行う。 ③授業後：課題を完成させmanabaに提出する。学習内容を自分の言葉でまとめてミニッツペーパーとしてmanabaに提出する。						
成績評価の基準・方法 【評価項目】【割合（％）】	ミニッツペーパー：20％ 課題：40％ 小テスト：40％	評価項目の 具体的内容	ミニッツペーパー：講義動画を視聴し、理解したこと等について各自の言葉で記述することを毎回求める。提出締切は次回授業日の授業開始時刻とする。遅延提出は認めない。ミニッツペーパーは出席確認も兼ねる。 課題：数学基礎（確率論、統計学、線形代数学、微分積分学）、アルゴリズムの各テーマに関して、問題演習、実習、あるいはレポートを課す。成果物はmanaba、Teamsへ提出することを求める。提出締切は次回授業日の授業開始時刻とする。遅延提出は認めない。フィードバックはmanabaやTeamsを通じて行う。 小テスト： 数学基礎（確率論、統計学、線形代数学、微分積分学）、アルゴリズムの各テーマに関して小テストを課す。 ※公欠の場合であっても、評価を受けるためにはミニッツペーパー・課題・小テストの提出が必要である。未提出分は評価対象外となる。				

実務経験のある教員による授業科目	該当しない
履修条件・受講生へのアドバイス	まず、記号・記法の運用に慣れること。そして、数学概念を理解すること。これらは車の両輪のようなものであり、絶えず両側を意識しながらバランスよく習熟していく必要がある。練習問題はその目安となるが、完全な目安ではない。本当にバランスよく学べているかどうかは自分自身に問うてみるしかない。そのために学習した内容を思い出して書き出してみるというのはよい方法である。予習・復習の際は、このような方法で確認することを勧める。よき友人を持つならば、学習内容を聞いてもらうというのも勧められるよい方法である。 一回でも欠席すると授業内容が理解できなくなるので、理由なく欠席しないこと。欠席した場合はmanabaに掲載されている当該回の資料を読み、必要な課題に取り組んだ上で、次の回の授業に出席すること。 manabaコースニュースやTeamsのメッセージを見逃さないように注意すること。 授業の資料や授業動画を第三者に提供及び配信・公開することは、著作権法上不当な行為となるので、ルールを厳守すること。 数学は自由である。日常、我々が用いている言語同様、自身のアイディアを表現できる。どうか公式の暗記を目標とはしないようにしていただきたい。偉大なる先人たちのアイディアこそ学んでいって欲しい。
他の科目との関連	データサイエンス・AI応用基礎プログラム（データサイエンス・AI副専攻プログラム）の1科目である。
教科書	特になし
参考書・参考文献	富川 祥宗：手を動かして学ぶ基礎数学、裳華房（2024/10/30） 赤石雅典：最短コースでわかるディープラーニングの数学、日経BP社（2019/4/15） クジラ飛行機：Pythonによるアルゴリズムの教科書、マイナビ（2023/6/27） 日本数学検定協会：データサイエンス数学ストラテジスト〔上級〕公式テキスト、日経BP社（2024/10/7） 東京科学大学（旧東工大）：Python 早見帳 東京大学：Python プログラミング入門
授業計画（第1回）	オリエンテーション、数学用語、集合、論理
授業計画（第2回）	順列と組合せ、確率、条件付き確率 応用：ベイズの定理
授業計画（第3回）	代表値（平均、中央値、最頻値）、散布度（分散、四分位偏差）
授業計画（第4回）	確率分布、確率密度分布、乱数 発展：中心極限定理と正規分布
授業計画（第5回）	ベクトル、行列の計算
授業計画（第6回）	ベクトルの内積とノルム 応用：コサイン類似度
授業計画（第7回）	線形変換と固有空間、特異値分解 応用：主成分分析
授業計画（第8回）	・中間小テスト ・関数の概念、合成関数、逆関数
授業計画（第9回）	指数関数、対数関数
授業計画（第10回）	1変数関数の微分と極値問題
授業計画（第11回）	2変数関数の微分と極値問題
授業計画（第12回）	単回帰、ロジスティック回帰、相関係数、積分法

授業計画 (第 1 3 回)	アルゴリズム入門 探索アルゴリズム、ソートアルゴリズム、アルゴリズムの良し悪し
授業計画 (第 1 4 回)	ニュートン法、乱数を用いたアルゴリズム
授業計画 (第 1 5 回)	・ふりかえり ・期末小テスト
授業計画 (第 1 6 回)	

【予定シラバス】

科目名	データサイエンス 4
担当教員名	
授業の目的と概要	[目的] AI の基本的な理解から、実際のアプリケーション開発、そしてその運用や利用上の注意点に至るまでを体系的に学ぶことを目的とする。 [概要] ノーコードの環境構築を用いて Web ページ要約、データ分析、チャットボットといった多様な AI アプリの作成演習を通して、具体的な開発スキルを習得し、実際に AI アプリの作成を行う。 本科目は社会の一員として必要な基本的な IT の知識と技能を身につけ、マネジメント関連分野に位置づけられた IT の専門知識と技能を身につけるための基礎を築くとともに、課題や解決策を見出し、論理的に表現する力を身につけるための一科目である。本科目のカリキュラムにおける位置づけはカリキュラムマップを参照されたい。
到達目標	1. 手順通りに AI アプリを作成することができる。 2. 作成した AI アプリの動作を説明することができる。 3. 自身で設計した AI アプリを作成することができる。
準備学習（予習・復習）	予習：講義動画を視聴し、理解する。【時間の目安 2 時間程度】 復習：演習課題に取り組み、AI アプリを作成する。学習内容を自分の言葉でまとめる。【時間の目安 2 時間程度】
授業方法	本科目は遠隔授業で実施する。manaba コースニュースや Teams のメッセージを見逃さないように注意すること。基本的には以下の①から③の授業サイクルを繰り返す。 ①授業前：manaba を通じて配信される講義動画をあらかじめ視聴する。 ②授業中：各自およびグループで演習に取り組む。Teams や manaba を通じて、受講生同士の相談、教員によるフィードバックを行う。 ③授業後：課題を完成させ manaba に提出する。学習内容を自分の言葉でまとめてミニッツペーパーとして manaba に提出する。
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合%】	演習:70% プレゼンテーション:30%
評価項目の具体的な内容	演習取り組みの証拠として、プログラムソースコードやスクリーンショット等を manaba へ提出することをほぼ毎回求める。演習課題の提出締切は次回授業日の授業開始時刻とする。遅延提出は認めない。フィードバックは当該授業時間中に manaba や Teams を通じて行う。 プレゼンテーション：学んだ技術を活用した AI アプリのプロトタイプについて発表し、資料と発表動画を提出する。授業内で提示されるルーブリックに基づいて評価される。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。
履修条件・受講生へのアドバイス	自分で手を動かして開発する体験が大切である。 AI アプリを作成するときに、正常に動作しない原因を自分で突き止めて修正する、いわゆるデバッグはプログラミングにおいて必須の行為である。命令の意味を理解して、自分が作成している AI アプリの構造を理解して、開発環境が教えてくれるエラーのヒントを読んで、頑張っでデバッグをして欲しい。それでも解決しない場合は、必ず質問をし、不具合や疑問をそのままにしない。 授業では、毎回課題を課すので、提出期限までに提出する必要がある。 授業の資料や授業動画を第三者に提供及び配信・公開することは、著作権法上不当な行為となるので、ルールを厳守すること。
他の科目との関連	データサイエンス・AI 応用基礎プログラム（データサイエンス・AI 副専攻プログラム）の 1 科目である。
教科書	なし。

参考書	授業資料における参考文献および学習をすすめる上で役に立つ参考書は授業内で適宜、提示する。
-----	--

授業計画（第1回）	イントロダクション ・AIの利用例
授業計画（第2回）	アプリケーション開発の基本的な流れ ・環境構築 (dify)
授業計画（第3回）	アプリ作成演習① ・画像生成アプリ
授業計画（第4回）	アプリ作成演習② ・Web ページの要約アプリ
授業計画（第5回）	アプリ作成演習③ ・データ分析アプリ
授業計画（第6回）	アプリ作成演習④ ・議事録アプリ
授業計画（第7回）	アプリ作成演習⑤ ・チャットボット
授業計画（第8回）	アプリ作成演習⑥ ・AI エージェント
授業計画（第9回）	AI 利用の注意点 ・ハルシネーション ・フェイクニュース ・著作権
授業計画（第10回）	AI アプリ実習① ・チームビルディング ・AI アプリの企画とアイデアソン ・kaggle と SIGNATE の紹介
授業計画（第11回）	AI アプリ実習② ・プロトタイピング ・UI/UX デザインの基本原則
授業計画（第12回）	AI アプリ実習③ ・中間発表
授業計画（第13回）	AI アプリ実習④ ・作成した AI アプリの PR 動画作成

授業計画（第 14 回） AI アプリ実習⑤
・作成した AI アプリの評価

授業計画（第 15 回） AI の運用
・ AI の開発環境と実行環境
・ データベース

試験実施の有無（第 16 回） ※試験のみ

2024年度 履修の手引

経済経営学部

卒業まで使用しますので
必ず保管して下さい



21世紀を生き抜くチカラ。

北陸大学
HOKURIKU UNIVERSITY

目 次

I 教育ポリシー	1
1. 建学の精神・教育理念	
2. 北陸大学の使命・目的	
3. 経済経営学部教育理念	
4. 経済経営学部の人材養成の目的	
5. 三つのポリシー	
II カリキュラム	7
1. 科目分類の概要	
2. 科目一覧	
3. カリキュラム・マップ、ナンバリング、カリキュラム・ツリー、 DPループリック	
III 授業・履修	39
1. 単位制	
2. 授業（授業科目区分・学期・形態・授業時間・クラス編成）	
3. 履修（受講手続き・履修登録上限単位数（CAP制）・出欠・休講補講等）	
4. 悪天候等における授業・試験の取り扱いと対応	
IV 試験・成績	43
1. 試験制度	
2. 成績（成績評価・GPA・成績疑義照会制度・成績通知）	
V 進級・卒業	47
1. 進級	
2. 卒業要件	
VI 学籍	48
1. 休学	
2. 復学	
3. 退学	
4. 転学部	
VII 留学	49
1. 留学制度	

Ⅷ 資格取得等	50
1. 教職課程	
2. 簿記検定試験及びITパスポート試験	
3. 語学検定試験	
4. 資格検定試験による単位認定	
Ⅸ 諸規程	52
北陸大学履修規程	
北陸大学経済経営学部履修細則	
北陸大学公認欠席等に関する細則	
北陸大学成績疑義照会内規	
北陸大学学生懲戒規程	
北陸大学試験等不正行為規程	
北陸大学情報システム「HUNET」利用ガイドライン	

3. カリキュラム・マップ、ナンバリング、カリキュラム・ツリー、DPループリック

【カリキュラム・マップ、ナンバリング】

ナンバリングとは、授業科目に番号をつけ、分類することで、学修の段階や順序を表し、教育課程の体系性を示す仕組みのことです。

経済経営学部マネジメント学科 カリキュラム・マップ

教育理念	
【経済経営学部】 生涯学び、成長し続けられる人材の養成をとおして、誰もが活躍できる社会の構築と発展に寄与する。 【マネジメント学科】 社会・組織・自己をマネジメントする力を身につけた人材の養成をとおして、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。	
人材養成の目的	
【経済経営学部】 広い知識と視野を持ち、他者と協働して課題を発見し解決することを通じて、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献できる人材を養成する。 【マネジメント学科】 マネジメント5分野(経営学、会計学、情報学、法学、経済学)の知識と技能を備え、社会・組織・自己における諸課題を多角的に捉え解決できるマネジメント力を持つ人材を養成する。	
学位授与方針(DP:ディプロマ・ポリシー)	
【大学】	
本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のため、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。 (知識・技能) (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。 (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。 (思考力・判断力・表現力) (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。 (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。 (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。	
【経済経営学部マネジメント学科】	
人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士(マネジメント学)の学位を授与する。 (知識・技能) (1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。 (2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。 (思考力・判断力・表現力) (3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。 (4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。 (5) 課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。 (7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。 (8) 他者と協働し、課題を解決することができる。	

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連(◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性	大学DPとの関連				
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
LIB101	教養	北陸大学の学び	1	必修	1	本学がどのような経緯を経て現在の大学として存在するか、本学の建学の精神を中心に学ぶ。	◎			○	◎			
LIB201	教養	北陸の文化と社会	2	選択	2	北陸地域の文化や産業の魅力を探り、地域の文化や産業の継承と発展、文化の活用による地域の活性化や地域産業の振興などを学ぶ。	◎			○				
LIB102	教養	SDGs1	2	選択	1	SDGs(持続可能な開発目標)の17の目標について、その概要を学び、今後の専門科目における学習の方向性を定める。	◎			◎	○	○	○	○
LIB103	教養	SDGs2	2	選択	1	SDGs1で学んだことを踏まえ、より深くSDGs達成に向けた方策を学び、課題を整理し解決方法を考える。	◎			○	○	○	○	◎
LIB104	教養	哲学	2	選択	1	現代社会に生じる多様な諸問題に対して円滑に対応できるようにするために、さまざまな哲学者の基本思想を学ぶ。	◎			○				
LIB105	教養	倫理学	2	選択	1	よりよく生きるという人間本来の課題をめぐって、近代の西洋倫理学の流れを概観し、代表的な思想家の考え方を学ぶ。	◎			○				
LIB106	教養	心理学	2	選択	1	心理学の基礎的な知識や理論を学び、心理学における「人間の心」の扱い方や「科学的な人間理解」の考え方を学ぶ。	◎			○				
LIB107	教養	社会学	2	選択	1	社会学の考え方や理論を学ぶとともに、実際の社会学分野の研究成果を知り、社会に対する幅広いものの見方を理解するための科目である。	◎			○				
LIB202	教養	政治学	2	選択	2	政治学の基礎的な用語を理解し、現在、何が政治の課題になっているのかを学ぶ。	◎			○				
LIB203	教養	行政学	2	選択	2	行政組織についての基本的な知識と、行政改革や地方分権の現状や課題を学ぶ。	◎			○				
LIB301	教養	国際政治学	2	選択	3	国際政治の様々な事例や課題について考えを知るとともに、国際政治理論の基本を学ぶ。	◎			○			○	
LIB302	教養	グローバルガバナンス	2	選択	3	国際社会に関する様々な課題を扱い、国際機関、国際法、国際協力などがどのように機能しているかを学ぶ。	◎			○			○	
LIB204	教養	自然科学概論	2	選択	2	自然科学に関する基礎知識を学ぶ。現在、自然の理解はどこまで進んでいるのか、さらに自然から学んだことを人間社会がどのように応用・利用しているかを理解する。	◎			○				
LIB205	教養	ジェンダー論	2	選択	2	ジェンダー(社会的性)と家族、学校、社会とのかかわりや、そこで作られ私たちを縛るジェンダー規範について、ジェンダーを取り巻く諸問題として学ぶ。	◎			○			○	

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連（◎強く関連、○関連）							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性					
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考え、正しく相手に伝える力を持っている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果について行動し、その結果に責任を持つことができる。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個々の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
LIB303	教養	生命科学	2	選択	3	“人体の不思議”について、現在の科学はどこまで解明しているのかを知る。	◎			○				
LIB108	教養	スポーツ1	1	選択	1	スポーツ・運動実践(個人スポーツや集団スポーツ)を通して、体力を増進させ、運動技能の習得と向上を図る。	◎					○	○	○
LIB109	教養	スポーツ2	1	選択	1	科学的理論に基づいたスポーツ・運動実践(個人スポーツや集団スポーツ)を通して、体力を増進させ、運動技能の習得と向上を図る。	◎					○	○	○
LIB206	教養	性教育	2	選択	2	学校における人権尊重教育の大きな柱として「いのちの教育」に対する深い造詣を構築する。個人の基本的な人権を尊重する者を養成する。	◎			○				
LIB304	教養	救急処置	2	選択	3	プレホスピタルケアの現場で求められる応急処置の考え方と手順の要点について学ぶ。	◎			○				
LIB305	教養	発達発達論	2	選択	3	発達や老化における様々な心身の変化について理解を深めるとともに、各段階に応じた運動・トレーニングの方法論や指導論について学ぶ。	◎					○	○	
LIB306	教養	公衆衛生学	2	選択	3	疾病予防、健康増進、環境保健活動、食品衛生、および保健や福祉制度の管理運営に対する知識と、個人や社会の健康保持・増進方法について学ぶ。	◎			○				
LEN101	外国語	英語1	1	必修	1	高校までに学んだ英語の知識を基礎に置きながら、文の基本構造を理解し、考えを単文で表現するために必要な知識・技能について学ぶ。	◎						○	
LEN102	外国語	英語2	1	必修	1	英語でまとまりのある文章を効果的に表現し、身近なトピックについて書かれた英文を正確に読むための技法と、語彙・文法の理解をさらに深める。	◎						○	
LEN201	外国語	実用英語1	1	選択	2	大学生が実生活において必要とされる表現力を身に付け、日常的に英語を「使う」ための実用的なスキルを学ぶ。これに関連付けながらTOEICで求められる知識も扱う。	◎				○		○	
LEN202	外国語	実用英語2	1	選択	2	「実用英語1」で目指した力をさらに発展させ、表現の幅を広げながら実用的な英語力の定着を図る。その指標としてTOEICを活用し、より高いスコアをあげるためのスキルについて学ぶ。	◎				○		○	
LEN301	外国語	実用英語3	1	選択	3	大学生として学ぶ専門領域と関係のあるトピックについて、ジャンルに特化した表現に慣れ親しみ、平易な文章で書かれたテキストを読む。	◎				○		○	
LEN302	外国語	実用英語4	1	選択	3	学内外において様々な人と交わり、英語を用いて論理的に議論を組み立て、抽象的な概念も表現できるようにする。またTOEICを活用し、実社会での英語運用能力を高める。	◎				○		○	
LCN201	外国語	中国語1	1	選択	2	中国語の発音の基礎や基本的な文法と語彙を学ぶ。	◎						○	
LCN202	外国語	中国語2	1	選択	2	中国語1に引き続き中国語の発音や文法を学び、中国語の表現のバリエーションを増やす。	◎						○	
LCN301	外国語	中国語3	1	選択	3	「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく修得する。	◎						○	
LCN302	外国語	中国語4	1	選択	3	「聞く・話す・読む・書く」の4技能をさらに高めるための中級段階の語彙、表現、文法を中心に学ぶ。	◎						○	
LEN303	外国語	English Seminar1	2	選択	3	本科目は、TOEICの対策講座である。基本から見直し、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能を身につける。	◎			○	○		○	
LEN304	外国語	English Seminar2	2	選択	3	本科目は、TOEICの対策講座である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能をいくつかを高める。	◎			○	○		○	
LEN401	外国語	English Seminar3	2	選択	4	本科目は、TOEICの対策講座である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能を総合的に高める。	◎			○	○		○	
LJP101	留学生特例	日本語1	1	選択	1	大学で使う読解力、聴解力を身につけるために様々なタイプの文章を読み取る練習をおこない、日本語の言葉や表現の理解を深める。	◎						○	
LJP102	留学生特例	日本語2	1	選択	1	様々なタイプの文章を正確に読み取る練習や日本語の言葉や表現の理解を深め、大学で使う読解力、聴解力を身につける。	◎						○	
LJP201	留学生特例	日本語3	1	選択	2	各自の興味に応じた読み物などを選び、それについての発表を行うことにより、日本語を理解する能力を身につける。	◎						○	
LJP202	留学生特例	日本語4	1	選択	2	各自の興味に応じた読み物などを選び、それについての発表を行うことにより、より専門的な内容の日本語を理解する能力を身につける。	◎						○	
LJP301	留学生特例	日本語5	1	選択	3	論理的な思考から自分の考えを表現する能力を身につける。	◎						○	
LJP302	留学生特例	日本語6	1	選択	3	論理的な思考から自分の考えを上手に表現し、伝える能力を身につける。	◎						○	
LJP103	留学生特例	実用日本語1	1	選択	1	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、入門的な日本語能力を高める。	◎						○	
LJP104	留学生特例	実用日本語2	1	選択	1	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、日常における基礎的な日本語能力を高める。	◎						○	
LJP203	留学生特例	実用日本語3	1	選択	2	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、日常における実践的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP204	留学生特例	実用日本語4	1	選択	2	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、応用的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP303	留学生特例	実用日本語5	1	選択	3	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、専門的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP304	留学生特例	実用日本語6	1	選択	3	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、総合的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP105	留学生特例	日本事情1	2	選択	1	日本についての情報から、自分なりの日本を発見し、それを伝えることにより日本の理解を深める。	◎						○	
LJP16	留学生特例	日本事情2	2	選択	1	日本について調査し、自分なりの日本を発見し、それを伝えることにより日本の理解を深める。	◎						○	
LJP305	留学生特例	資格日本語1	2	選択	3	日本語能力試験の入門的な出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）を学習する。	◎			○	○		○	
LJP306	留学生特例	資格日本語2	2	選択	3	日本語能力試験の基礎的な出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）を学習する。	◎			○	○		○	
LJP401	留学生特例	資格日本語3	2	選択	4	日本語能力試験の応用的な出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）を学習する。	◎			○	○		○	
LJP402	留学生特例	資格日本語4	2	選択	4	日本語能力試験の総合的な出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）を学習する。	◎			○	○		○	

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力をもっている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力をもっている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果について行動に伝える力をもっている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、責任を果たすことができる。	(7) 多様な価値観の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
PSS101	文章表現	日本語リテラシー1	2	選択	1	自分の考えていることや知っていることが相手に正しく伝わるようにするために、文と語句・段落構成・全体構成を整える技能を身につける文章作成科目である。	○			◎	◎			○
PSS102	文章表現	日本語リテラシー2	2	選択	1	他者の文章などを要約して、論点を見つけることによって、適切に引用して、自己の意見と他者の意見を区別しつつ、自己の意見を小論文形式で作成する技能を身につける科目である。	○			◎	◎			○
PSS201	文章表現	アカデミックライティング1	1	選択	2	他者の文章・図表から自ら論点を見つけ、自ら調査した内容と組み合わせることで、他者の意見を批判的に検討した文章を作成する技能を身につける科目である。		○		◎	◎			○
PSS202	文章表現	アカデミックライティング2	1	選択	2	学術的な「問い」に対し、自分で全体構造(アウトライン)を考えた文章を作成できるようになるために、論証に必要な論理的思考を身につける科目である。		○		◎	◎			○
PSS301	文章表現	リサーチプロジェクト1	1	選択	3	信頼できる情報源から情報を収集する方法を把握して、図表などを適切に用いて表現するため技能を用いて文章を作成する科目である。		○		◎	◎			○
PSS302	文章表現	リサーチプロジェクト2	1	選択	3	卒業研究に備えて、研究テーマや学術的な問いの立て方、研究計画書を作成する際に記載すべき事項を学んで、実践していく文章表現科目である。		○		◎	◎			○
INT101	海外研修	海外研修1	1	選択	1～4	海外研修の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT102	海外研修	海外研修2	1	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT103	海外研修	海外研修3	2	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT104	海外研修	海外研修4	2	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT105	海外研修	海外研修5	6	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT106	海外研修	海外研修6	6	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
DAI101	データサイエンス・AI	情報リテラシー	2	必修	1	レポートや論文の作成に必要なアカデミックリテラシーを学ぶ。具体的には、参考文献・引用・データ処理などを学ぶ。	◎		◎	○	○			
DAI102	データサイエンス・AI	プログラミング入門	2	選択	1	コンピュータに対する命令がどのように書かれているかを理解し、基礎的なプログラミングを実行できるようになるため、プログラミングに関する講義・問題演習と簡単なアプリ開発演習を行う。		○	◎	○	○			
DAI103	データサイエンス・AI	AI基礎	2	選択	1	AI(人工知能)・深層学習を始めとする情報技術の概要と仕組み・活用事例を学び、情報技術の進展による社会の変化と個人への影響を理解することを通じて、社会・組織・個人の問題解決のために情報技術を有効かつ安全に活用する能力を身につける。		○	◎	○	○			
DAI104	データサイエンス・AI	データサイエンス1	2	選択	1	データやAI(人工知能)を日常生活や仕事等で使いこなせる基礎的なスキルを身につける。データを可視化し、データから事象を理解できるようになるとともに、データやAIの限界についても学ぶ。	○		◎	○	○			
DAI201	データサイエンス・AI	データサイエンス2	2	選択	2	データサイエンスの基本として、どの分野を学ぶにも必要となる標準的な統計学として、記述統計や入門的な推測統計を学ぶ。実際にデータとデバイス・ソフトを活用して経験的に統計学の概念を学ぶ。		○	◎	○	○			
DAI202	データサイエンス・AI	データサイエンス3	2	選択	2	データサイエンス1および2で学んだ内容を発展させ、多変量解析について中心的に学習する。		○	◎	○	○			
DAI301	データサイエンス・AI	データサイエンス4	2	選択	3	人工知能に関する正しい知識を学び、機械学習の実装方法の一端を体得することを目的とする。機械学習の基礎的な概念と理論を学び、機械学習を応用するために必要な知識の習得を目指す。		○	◎	○	○			
DAI203	データサイエンス・AI	社会調査法	2	選択	2	さまざまな調査を行う際の企画の立て方、データの収集方法およびその取扱い方など社会調査を行う上で必須となる知識・技能を学習する。また、簡単なサンプリングや質問文の作成などのワークを通じて、調査の設計における注意事項などを学習する。		○	◎	○	○			
DAI204	データサイエンス・AI	データサイエンスのための数学	2	選択	2	データサイエンスに必要な数学として、線形代数・微分積分・確率論・統計学の4領域を学習する。		○	◎					
DAI302	データサイエンス・AI	データベース	2	選択	3	データベースを構築・操作する実践演習を通じて、データベースの仕組みを理解し、データベースの設計と運用管理手法を学ぶ。		○	◎					
DAI303	データサイエンス・AI	データエンジニアリング	2	選択	3	データの取得の方法から、実際に機械学習に利用できるようにデータを整形する各種の前処理手法について学ぶ。		○	◎	○				
CAE101	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアデザイン1	1	選択	1	基礎ゼミナールと連動し、毎週45分で開講されるリフレクション科目となる。自己の経験をふりかえり、他者に伝える。社会人による講座も実施する。	○					◎		
CAE102	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアデザイン2	1	選択	1	基礎ゼミナールと連動し、毎週45分で開講されるリフレクション科目となる。自己の経験をふりかえり他者に効果的に伝える。社会人による講座も実施する。	○					◎		
CAE103	リーダーシップ・キャリア形成	リーダーシップ入門	1	選択	1	目標達成に向けて組織を率い導く資質能力であるリーダーシップの概念と理論の変遷について学び、企業・組織のマネジメントのあり方と関連して今後求められるリーダーシップについて自分の意見を確立する。	○					◎	◎	○
CAE104	リーダーシップ・キャリア形成	ファシリテーション論	2	選択	1	チーム活動やグループ学習、ディスカッション等において、グループを活性化させるためのチームビルディングやファシリテーションの手法や考え方を、主に実践を通じて身につける。						◎	◎	○
CAE201	リーダーシップ・キャリア形成	アントレプレナーシップ論	1	選択	2	起業家による体験談の講演、デザイン思考等の思考法やフレームワークに関する講義・演習、ビジネスプランの作成とそれに基づく販路検証や顧客ヒアリング等の機会を通じて、アントレプレナーシップの精神を身につける。						◎	○	○
CAE202	リーダーシップ・キャリア形成	キャリア形成論	1	選択	2	自分の生き方について考え、主体的にキャリアを形成するために必要な知識と考え方について学ぶ。キャリア形成の基盤となる能力と態度を身につけ、在学時のみならず生涯に亘って自律的にそれらを実践できるようにすることを目指す。	○				◎	○		
CAE301	リーダーシップ・キャリア形成	インターンシップ	2	選択	3	インターンシップに関する事前研修をうけ、インターンシップに参加することで職業体験を行う。事後研修も実施する。	○					◎		
CAE302	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアアブラニング	2	選択	3	インターンシップにおける活動の振り返りをグループで行うこと等を通じて、自分のキャリアを自律的にデザインできるようにすることを目指す。	○				◎	○		
MAN101	経営	経営学入門	2	必修	1	経営学領域の学びの導入として組織内部と外部のマネジメントと、幅広く基礎的な論点を学習する。	○	◎						
MAN102	経営	経営戦略論	2	選択	1	1年次の経営学入門の学びを発展させ、より深く戦略論を学習するとともに実践的な戦略策定のポイントを事例を交えて学習する。	○	◎						

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連(◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 社会の一端として必要となる幅広い知識と技術を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力をつけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を持っている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個々の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
MAN301	経営	経営分析論	2	選択	3	実際の企業の経営活動を分析するために、経営分析の目的や考え方、分析するためのモデル、そして、分析に必要な財務諸表に代表されるデータの収集方法や扱い方について学ぶ。また、分析も行い、分析に基づいた提言を検討する。	○	◎	◎	○	○			
MAN201	経営	経営組織論	2	選択	2	組織の中の個人の行動や個人と個人の関わり方に焦点を当てたミクロ組織論、そして組織構造を分析単位として捉えていくマクロ組織論を体系的に深く学習する。	○	◎						
MAN202	経営	人的資源管理論	2	選択	2	企業の重要な経営資源であるヒト、モノ、カネ、情報、この中で「ヒト」に焦点をあて、人材をどのように育成すればいいのか、どうすれば組織のパフォーマンスが上がるのか等について、賃金体系や昇進システムなども含めて考察する。	○	◎						
MAN103	経営	マーケティング論	2	選択	1	企業の対市場活動を理解するために、製品、価格、プロモーション、流通の視点から、具体的なケースとあわせて、背後にある理論やロジックを学ぶ。	○	◎						
MAN203	経営	消費者行動論	2	選択	2	消費者が「なぜ買うのか？」を理解するために、経済学や心理学などの視点と交え、消費者の購買意思決定プロセスを中心に学ぶ。	○	◎						
MAN302	経営	マーケットリサーチ論	2	選択	3	エビデンスに基づいた論文やレポートを作るために、社会調査の考え方、調査手法、検証方法を学ぶ。統計学や分析ツールの使い方も学習する。	○	◎	◎	◎	◎			○
MAN303	経営	マーケティング・サイエンス	2	選択	3	マーケティング活動に関連したさまざまな意思決定をデータと論理的な視点から捉えるために、経済学や心理学の知見をふまえた理論モデルとその実証について学ぶ。	○	◎	○	◎				
MAN204	経営	広告論	2	選択	2	企業がターゲットとコミュニケーションする目的、手段を理解するために、マーケティング・ミックスにおける広告(プロモーション)戦略の立案やマネジメント方法、そして、広告効果を測定するモデルおよび測定方法について学ぶ。	○	◎	○					
MAN304	経営	イノベーション論	2	選択	3	企業が成長、競争する上で重要なイノベーションに関する基本的な理論・知識を習得する。イノベーションとは何か、イノベーションの発生・普及過程を整理するとともに、大企業がジレンマに陥る原因等を考察する。	○	○		◎				
MAN305	経営	中小企業論	2	選択	3	多様かつ多数を占める中小企業の経営活動を理解するために、大企業と比較しながら、中小企業の経営活動を捉える理論やロジック、具体的な事例について学ぶ。	○	◎						
MAN306	経営	経営史	2	選択	3	企業や経営者が外部環境の変化の中で主体的な意思決定に基づき行動し各種の戦略と歴史を作ってきた。その変遷を学習する。		◎	◎	◎	◎			
LAW101	法学	法学入門	2	必修	1	「法的思考力」を身につけるために、法学の基本的知識を学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW201	法学	日本国憲法	2	選択	2	国会・内閣・裁判所の憲法上の位置づけと、立憲主義(人権を尊重し、国家権力を制限すること)を学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW102	法学	民法1	2	選択	1	民法総則および「人と人との関係」のうちの「家族関係」上の具体的な問題(子の権利、夫婦関係、親子関係、相続など)を中心に学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW202	法学	民法2	2	選択	2	「人と人との関係」を支える契約や不法行為などを中心に学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW203	法学	民法3	2	選択	2	「人と物との関係」(＝「物権」)に関連する諸制度について学ぶ。		◎	○	○	○			
LAW204	法学	刑法	2	選択	2	社会的な事例を扱いながら、刑法に関する基本的な原則について学ぶ。		◎	○	○	○			
LAW301	法学	行政法	2	選択	3	行政に関連する諸法律に共通する原理や仕組みについて学ぶ。		◎	○	○	○			
LAW302	法学	企業法	2	選択	3	会社制度の法的枠組みと会社統治の仕組み、会社の資金調達について学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW303	法学	知的財産権法	2	選択	3	知的財産法(著作権法、特許法、商標法など)について学ぶ。		◎	○	○	○			
LAW304	法学	労働法	2	選択	3	労働条件、就業規則、労働協約、解雇などを中心に学ぶ。		◎	○	○	○			
ACC101	会計	会計学入門	2	必修	1	会計学の基礎的な考え方の理解を目的とし、会計の目的、会計の利用(財務会計・管理会計)や、複式簿記のしくみについて学ぶ。	◎	◎						
ACC102	会計	簿記論1	2	選択	1	日商簿記検定3級が認定する商業簿記の一連の流れを理解し、仕訳や決算手続などに関する基礎的な知識と技術を体系的に学ぶ。	◎	◎						
ACC201	会計	簿記論2	2	選択	2	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、商業簿記の仕訳や決算手続、課税所得の算定と税効果会計、収益の認識基礎といった個別論点の知識を習得する。	○	◎						
ACC202	会計	簿記論3	2	選択	2	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、商業簿記の本支店会計、合併と事業譲渡、連結会計といった特殊論点の知識を習得する。	○	◎						
ACC203	会計	工業簿記論	2	選択	2	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、工業簿記の概念、材料費・労務費・経費計算、製造間接費、部門費計算について学習する。	○	◎						
ACC204	会計	原価計算論	2	選択	2	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、損益分岐点分析等について学習する。	○	◎						
ACC103	会計	会計学原論	2	選択	1	会計学の基礎的な考え方の理解を目的とし、企業会計の機能や原則、会計基準と会計制度、財務諸表(決算書)の体系を学ぶ。	◎	◎						
ACC205	会計	財務会計論	2	選択	2	財務会計の基礎的な知識を習得し、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の内容と関係性を理解する。そして、それら財務諸表の分析手法を学ぶ。	◎	◎						
ACC301	会計	税務会計論	2	選択	3	法律学領域である租税法の運用を理解するために、租税の意義、税務会計の基礎、税務実務の基礎知識を学ぶ。「簿記論1」、「財務会計論」既習が履修の前提となる。		◎	◎	◎	◎			
ACC302	会計	管理会計論	2	選択	3	管理会計の基礎的な知識を習得し、企業のPDCA(計画・実施・評価・改善活動)サイクルにおける意思決定と業績管理の手法や事例について学ぶ。		◎	◎	◎	◎			
ACC303	会計	監査論	2	選択	3	会計監査制度の概要を理解するために、監査の基礎概念、監査人制度、監査意見形成のプロセスをケースを織り交ぜながら学ぶ。「簿記論1」、「財務会計論」既習が履修の前提となる。	◎	◎	◎	◎	◎			
ACC304	会計	会計情報論	2	選択	3	会計を情報として捉える視点から、企業の財務諸表が証券投資や融資の意思決定にどのように役立つかを学ぶ。「財務会計論」既習が履修の前提となる。	○	◎	◎	◎	◎			
INF101	情報	情報社会論	2	選択	1	AIやIoTを始めとする情報技術の導入にともなう倫理的・法的・社会的課題に関する議論を通して、各自が確かな判断基準を持ち、技術を安心安全に活用するための適切な判断ができるようになることを目指す。	○	◎	◎	◎	◎	○		
INF201	情報	基礎プログラミング	2	選択	2	基礎的なプログラムを自分で作成できる技能を身につけた上で、効率よく問題を解決するために必要なデータ構造とアルゴリズムの基礎について理解する。	○	◎	○	○				

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果について行動に伝える力を身につけている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
INF202	情報	応用プログラミング	2	選択	2	基礎プログラミングで身につけた知識・技能を前提として、実践と問題解決に必要な技術と概念を身につける。データベースと連携させたWebアプリケーションの開発に必要な技術と概念を身につける。	○	◎	○	○				
INF203	情報	実践プログラミング	2	選択	2	フレームワークを利用したWebアプリケーション開発演習を通じて、実践的なWebアプリケーション開発の基礎と実践的なプログラミング技術を修得する。	○	◎	○	○				
INF204	情報	情報ビジネス論	2	選択	2	AIやIoTを始めとする情報技術について学び、それらを活用した新しいサービスを考える学習を通じて、自分のアイデアを形にする態度と技能を身につける。	○	◎	◎	◎	◎	○		
INF301	情報	情報通信ネットワーク1	2	選択	3	情報通信の仕組みを理解するため、TCP/IPプロトコルスタックとルーティングについて学ぶ。ルータを用いた小規模なネットワーク構築演習を行う。		◎	○	○	○			
INF302	情報	情報通信ネットワーク2	2	選択	3	実用レベルのネットワークについて理解するため、ルーティング、スイッチング、セキュリティの初歩を学ぶ。ルータとスイッチを用いた小規模なネットワーク構築演習を行う。		◎	○	○	○			
INF303	情報	情報システム1	2	選択	3	インターネットの各種サービスを支えるLinux OSの構造と制御について実機演習を通じて学ぶ。		◎	○	○	○			
INF304	情報	情報システム2	2	選択	3	Linuxを用いたセキュアなWebサーバ等の構築とフレームワークを用いたWebシステムの構築について実機演習を通じて学ぶ。		◎	○	○	○			
INF305	情報	アプリケーション開発	2	選択	3	これまでに学んだ情報系の知識・技術を統合し、自身の身の回りに存在する何らかの問題を解決するアプリケーションを開発する。		◎	○	○	○			
INF306	情報	情報セキュリティ	2	選択	3	安全・安心な情報システム開発に求められるセキュリティの知識と実践的な技術を習得するため、暗号・認証や、サイバー攻撃手法、各種セキュリティについて演習を交えて学ぶ。		◎	○	○	○			
EC0101	経済	経済学入門	2	選択	1	経済学の基本的について学ぶ。具体的には機会費用やインセンティブなどを学ぶ。加えて、学んだことを用いて身近なテーマについて考える。	○	◎						
EC0201	経済	ミクロ経済学	2	選択	2	各経済主体の合理的行動を分析し、その行動が市場でどのような結果をもたらすかを学ぶとともに、それを用いて市場の経済分析を学ぶ。	○	◎		○				
EC0202	経済	マクロ経済学	2	選択	2	一国全体の経済を対象として、国全体の所得がどのように決まるかを学ぶ。経済政策の効果についても学ぶ。	○	◎		○				
EC0203	経済	日本経済論	2	選択	2	現代日本の経済事情について学ぶ。日本経済が直面する問題についてディスカッションも行う。	○	◎		○				
EC0301	経済	国際経済学	2	選択	3	国境を超えた経済活動を経済学的に分析し、国際経済の問題についてディスカッションを行う。		◎		○				
HSS101	スポーツ	スポーツ科学概論	2	選択	1	健康・体力づくりから、運動・スポーツにかかわる科学的知識・思考力の基礎を学ぶ。	○	◎						
HSS102	スポーツ	運動生理学	2	選択	1	身近な事例をもとに、スポーツや運動中に生体内で生じる生理的変化や、トレーニング効果について学ぶ。	○	◎						
HSS201	スポーツ	運動動作学	2	選択	2	身近な事例をもとに、スポーツや運動動作にかかわる身体の力学的しくみについて学ぶ。	○	◎						
HSS202	スポーツ	運動心理学	2	選択	2	心理学に関する基礎知識や運動・スポーツ現場における実践例の学習を通して、運動心理学の意義や活用方法を学ぶ。	○	◎						
HSS203	スポーツ	体育原理	2	選択	2	体育やスポーツを原理的観点から学習し、現代体育やスポーツについて理解をする。また、体育科教育を規定する諸問題についても考える。	○	◎						
HSS204	スポーツ	スポーツ栄養学	2	選択	2	健康を維持・増進するための食事や、アスリートの食事など、日常生活やスポーツ現場で活用するための基礎知識と方法を学ぶ。	○	◎						
HSS301	スポーツ	スポーツ社会学	2	選択	3	現代社会におけるスポーツの様々な現象を社会学的視点から捉え、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会的意義について学ぶ。	○	◎						
HSS302	スポーツ	スポーツマネジメント	2	選択	3	スポーツ産業の在り方やプロ・地域スポーツクラブの経営・運営方法について学び、実際にスポーツイベントを企画し、プレゼンテーションを行う。	○	◎		○	○			○
HSS303	スポーツ	コーチング学	2	選択	3	スポーツコーチングに必要な専門的知識を学び、コーチング計画を立案し、プレゼンテーションを行う。	○	◎						
HSS304	スポーツ	学校保健	2	選択	3	学校保健の現状と動向を知り、安全管理に対する知識を身につけ、事故事例を用いて教員としての役割を学ぶ。	○	◎						
EC0302	展開	北陸SDGs基礎	2	選択	3	2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)の内容を理解するとともに、北陸地域における取り組みなどについて学ぶ。授業では、各都市などの取り組みについて主に理論面から学ぶ。	◎	◎		○	○		○	
EC0303	展開	北陸SDGs実践	2	選択	3	2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)の内容を学んだ上で、北陸の地域特性に合わせた取り組みを提案する。	◎	◎		○	○	○	○	○
INF102	展開	情報処理演習	2	選択	1	ITパスポート資格取得を目指しながら、ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識を身につける。	○	○						
CDS101	展開	地域マネジメント入門	2	選択	1	地方における諸問題(人口減少・少子高齢化など)を題材に、自治体などが実施している政策・施策について学ぶ。	○	◎		○	○			○
CDS201	展開	地域マネジメント総論	2	選択	2	各自治体における課題とそれに対する政策・施策をグループワーク中心で学ぶ。	○	◎		○	○			○
CDS202	展開	地域マネジメント実習	1	選択	2	公的統計の収集・分析、文献調査、事例分析、フレームワーク分析をグループで実施して、SDGsの目標達成や持続可能な社会の実現のために地域コミュニティを豊かにする方策を検討する。	○	◎		○	○	○	○	○
HSS103	展開	スポーツ実習1(サッカー)	1	選択	1	サッカーの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
HSS104	展開	スポーツ実習2(バスケットボール)	1	選択	1	バスケットボールの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
HSS205	展開	スポーツ実習3(体づくり運動・器械)	1	選択	2	体づくり運動、器械運動の特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
HSS206	展開	スポーツ実習4(ベースボール・テニス)	1	選択	2	ベースボール、テニスの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
HSS207	展開	スポーツ実習5(ダンス)	1	選択	2	ダンスの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
HSS208	展開	スポーツ実習6(バレー・バドミントン)	1	選択	2	バレーボール・バドミントンの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連(◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力をつけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果について行動に伝える力を身につけている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
HSS305	展開	スポーツ実習7(陸上・水泳)	1	選択	3	陸上競技、水泳の特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
HSS306	展開	スポーツ実習8(武道)	1	選択	3	武道(柔道)の特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
ADV101	展開	マネジメント実践講座1	1	選択	1~4	マネジメント科目の各分野における基礎的な知識や考え方を身につけ、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV102	展開	マネジメント実践講座2	1	選択	1~4	マネジメント科目の各分野における基礎的な知識や考え方を深め、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV103	展開	マネジメント実践講座3	1	選択	1~4	マネジメント科目の各分野における応用的な知識や考え方を身につけ、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV104	展開	マネジメント実践講座4	1	選択	1~4	マネジメント科目の各分野における応用的な知識や考え方を深め、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV105	展開	マネジメント実践講座5	2	選択	1~4	マネジメント科目の各分野における発展的な知識や考え方を身につけ、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV106	展開	マネジメント実践講座6	2	選択	1~4	マネジメント科目の各分野における発展的な知識や考え方を深め、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV107	展開	マネジメント実践講座7	2	選択	1~4	マネジメント科目の各分野における応用的分野や展開分野に関する知識を修得し、専門分野に関する理解を深めるための科目となる。		◎	○	○	○			
ADV108	展開	マネジメント実践講座8	2	選択	1~4	マネジメント科目の各分野における応用的分野や先端分野に関する知識を修得し、専門分野に関する理解を深めるための科目となる。		◎	○	○	○			
ZEM101	演習	基礎ゼミナール	4	必修	1	大学生としてのスタディスキルや協働力と知識活用型の言語力・ライティングを身につけるための初年次ゼミである。				○	◎	○	◎	○
ZEM201	演習	専門基礎ゼミナール	4	必修	2	様々な分野のテキストを読解し、レジュメにまとめ、論点を議論し、レポートにまとめる力を身につけるためのゼミである。	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
ZEM301	演習	専門ゼミナール	4	必修	3	ゼミ担当教員の専門領域に関する文献を読み、ディスカッションや発表などを行う。フィールドワークを行うクラスもある。専門領域の基礎的な知識と専門分野の思考様式を学ぶ。		◎	○	○	○	◎	◎	◎
ZEM401	演習	卒業研究	6	必修	4	卒業のためには、卒業論文の作成または共同研究の実施のいずれかを必須とする。いずれも発表会を行う。		◎	○	○	○	◎	◎	◎
TTC101	教職	教育学概論	2	自由	1	教育学の基礎的な知識を取り入れながら「学び」の意義を考え自分なりの教育観を構築する。						◎	○	○
TTC102	教職	教職論	2	自由	1	教師という職業に対する見方が変化している今日、教師に求められる資質・能力は何かを多面的・多角的に学ぶ。						◎	○	○
TTC301	教職	教育社会学	2	自由	3	教育と社会の関係性について、社会階級や格差、ナショナリズムなどを通して学ぶ。						◎	○	○
TTC201	教職	教育心理学	2	自由	2	教師として必要となる「発達と学習」「教育評価」「障害児教育」などを含めた心理学的知識について学ぶ。						◎	○	○
TTC202	教職	特別支援教育	1	自由	2	個に重点を置いた学校教育において、一人一人の児童生徒の課題に丁寧に向き合い課題解決に向けて具体的な障害とそれに応じた指導方法等について学ぶ。						◎	○	○
TTC203	教職	教育課程論	2	自由	2	学校教育における教育内容の中心である教育課程の意義や実際について理解するとともに、教育課程をめぐって現代的教育課題について学ぶ。						◎	○	○
TTC302	教職	道徳教育論	2	自由	3	学校における道徳教育の位置づけや「特別の教科道徳」を指導する上での基礎的な知識・理論を修得し、学習指導案作成し授業の進め方を学ぶ。						◎	○	○
TTC303	教職	特別活動と総合的な学習の時間	2	自由	3	特別活動では、ねらいや内容、実施上の課題、指導案の作成等、総合的な学習の時間では、様々な取り組みの事例をもとに、地域や学校にあった活動について学ぶ。						◎	○	○
TTC204	教職	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法)	2	自由	2	情報機器の活用による学習事例やその効果について検討し、情報機器を活用する授業を構想し、そのための教材作成スキルを学ぶ。						◎	○	○
TTC304	教職	生徒・進路指導論	2	自由	3	生徒指導の教育的意義と課題、進路指導の原理と実践について理解を深める。さらに現在学校で実践されているキャリア教育の取組も学ぶ。						◎	○	○
TTC305	教職	教育相談	2	自由	3	教育相談を行うときに求められる対応や必要な理論・技法について概観し、学校現場における教育相談的なかわりや人間観について学ぶ。						◎	○	○
TTC401	教職	教育実習事前事後指導	1	自由	4	事前指導では実習生として教育活動に積極的に取り組む態度を養い、事後指導では実習で得られた成果と課題等を省察することで、教育実習の意義を理解する。						◎	○	○
TTC402	教職	教育実習1	2	自由	4	観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考える。						◎	○	○
TTC403	教職	教育実習2	2	自由	4	観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考える。自らの課題を考える。						◎	○	○
TTC404	教職	教職実践演習(中・高)	2	自由	4	教職課程の最終段階において教員として「使命感や責任感」「社会性や対人関係能力」「生徒理解や学級経営」「教科の指導力」など必要な資質・能力が形成されているかをふりかえる。						◎	○	○
TTC306	教職	公民科教育法1	2	自由	3	高等学校の公民科の現代社会・倫理・政治経済の基礎的な内容を学ぶ。				○		◎	○	○
TTC307	教職	公民科教育法2	2	自由	3	高等学校の公民科の現代社会・倫理・政治経済の応用的な内容を学ぶ。				○		◎	○	○
TTC205	教職	保健体育科教育法1	2	自由	2	中学校・高等学校における体育授業の「目標」「内容」「方法」について理解し、指導案の作成方法・実践方法の基礎を学ぶ。		○	○	○	○	○		
TTC206	教職	保健体育科教育法2	2	自由	2	保健体育科教育法1で学んだ内容を踏まえ、球技系科目の指導案を作成し、模擬授業を行う。		○	○	○	○	○		
TTC308	教職	保健体育科教育法3	2	自由	3	保健体育科教育法1で学んだ内容を踏まえ、体づくり運動、器械運動、陸上競技等の指導案を作成し、模擬授業を行う。		○	○	○	○	○		
TTC309	教職	保健体育科教育法4	2	自由	3	中学・高等学校の保健授業の「目標」「内容」「方法」について理解し、指導案の作成方法、実施方法の基礎を学び模擬授業を行う。		○	○	○	○	○		
REM101	リテラシー	基礎数学1	2	自由	1	高校までの基礎的な数学を復習するとともに、社会で求められる基礎的な数学力を再構築する。	○			○				
REM102	リテラシー	基礎数学2	2	自由	1	高校までの基礎的な数学を復習するとともに、社会で求められる基礎的な数学的スキルを学ぶ。	○			○				

経済経営学部経済学科 カリキュラム・マップ

教育理念									
【経済経営学部】 生涯学び、成長し続けられる人材の養成をとおして、誰もが活躍できる社会の構築と発展に寄与する。 【経済学科】 経済学の視点から多様な価値を見いだす力を身につけた人材の養成をとおして、持続可能な社会の実現を目指す。									
人材養成の目的									
【経済経営学部】 広い知識と視野を持ち、他者と協働して課題を発見・解決することを通して、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献できる人材を養成する。 【経済学科】 経済学を中心とした知識と技能を身につけ、現代社会が抱える課題を解決し、新たな価値を創造できる人材を養成する。									
学位授与方針(DP:ディプロマ・ポリシー)									
【大学】 本学は、「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のため、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。 (知識・技能) (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。 (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。 (思考力・判断力・表現力) (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。 (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。 (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。									
【経済経営学部経済学科】 人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士(経済学)の学位を授与する。 (知識・技能) (1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。 (2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。 (思考力・判断力・表現力) (3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。 (4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。 (5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。 (7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。 (8) チームで協働し、課題を解決することができる。									

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連(◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性					
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
LIB101	教養	北陸大学の学び	1	必修	1	本学がどのような経緯を経て現在の大学として存在するのか、本学の建学の精神を中心に学ぶ。	◎			○	◎			
LIB201	教養	北陸の文化と社会	2	選択	2	北陸地域の文化や産業の魅力を探り、地域の文化や産業の継承と発展、文化の活用による地域の活性化や地域産業の振興などを学ぶ。	◎			○				
LIB102	教養	SDGs1	2	選択	1	SDGs(持続可能な開発目標)の17の目標について、その概要を学び、今後の専門科目における学習の方向性を定める。	◎			◎	○	○	○	○
LIB103	教養	SDGs2	2	選択	1	SDGs1で学んだことを踏まえ、より深くSDGs達成に向けた方策を学び、課題を整理し解決方法を考える。	◎			○	○	○	○	◎
LIB104	教養	哲学	2	選択	1	現代社会に生じる多様な諸問題に対して円滑に対応できるようにするために、さまざまな哲学者の基本思想を学ぶ。	◎			○				
LIB105	教養	倫理学	2	選択	1	よりよく生きるという人間本来の課題をめぐる、近代の西洋倫理学の流れを概観し、代表的な思想家の考え方を学ぶ。	◎			○				
LIB106	教養	心理学	2	選択	1	心理学の基礎的な知識や理論を学び、心理学における「人間の心」の捉え方や「科学的な人間理解」の考え方を学ぶ。	◎			○				
LIB107	教養	社会学	2	選択	1	社会学の考え方や理論を学ぶとともに、実際の社会学分野の研究成果を知り、社会に対する幅広いものの見方を理解するための科目である。	◎			○				
LIB202	教養	政治学	2	選択	2	政治学の基礎的な用語を理解し、現在、何が政治の課題になっているのかを学ぶ。	◎			○				
LIB203	教養	行政学	2	選択	2	行政組織についての基本的な知識と、行政改革や地方分権の現状や課題を学ぶ。	◎			○				
LIB301	教養	国際政治学	2	選択	3	国際政治の様々な事例や課題について考えを知るとともに、国際政治理論の基本を学ぶ。	◎			○			○	
LIB302	教養	グローバルガバナンス	2	選択	3	国際社会に関する様々な課題を扱い、国際機関、国際法、国際協力などがどのように機能しているかを学ぶ。	◎			○			○	
LIB204	教養	自然科学概論	2	選択	2	自然科学に関する基礎知識を学ぶ。現在、自然の理解はどのように進んでいるのか、さらに自然から学んだことを人間社会がどのように応用・利用しているかを理解する。	◎			○				
LIB205	教養	ジェンダー論	2	選択	2	ジェンダー(社会的性)と家族、学校、社会とのかわりや、そこで作られ私たちが縛られるジェンダー規範について、ジェンダーを取り巻く諸問題として学ぶ。	◎			○			○	
LIB303	教養	生命科学	2	選択	3	“人体の不思議”について、現在の科学はどこまで解明しているのかを知る。	◎			○				
LIB108	教養	スポーツ1	1	選択	1	スポーツ・運動実践(個人スポーツや集団スポーツ)を通して、体力を増進させ、運動技能の習得と向上を図る。	◎					○	○	○
LIB109	教養	スポーツ2	1	選択	1	科学的理論に基づいたスポーツ・運動実践(個人スポーツや集団スポーツ)を通して、体力を増進させ、運動技能の習得と向上を図る。	◎					○	○	○

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性					
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
L1B206	教養	性教育	2	選択	2	学校における人権尊重教育の大きな柱として「いのちの教育」に対する深い造詣を構築する。個人の基本的な人権を尊重する者を養成する。	◎			○			○	
L1B304	教養	救急処置	2	選択	3	プレホスピタルケアの現場で求められる応急処置の考え方と手順の要点について学ぶ。	◎			○				
L1B305	教養	発達発達論	2	選択	3	発達発達や老化における様々な心身の変化について理解を深めるとともに、各段階に応じた運動・トレーニングの方法論や指導論について学ぶ。	◎					○	○	
L1B306	教養	公衆衛生学	2	選択	3	疾病予防、健康増進、環境保健活動、食品衛生、および保健や福祉制度の管理運営に対する知識と、個人や社会の健康保持・増進方法について学ぶ。	◎			○				
LEN101	外国語	英語1	1	必修	1	高校までに学んだ英語の知識を基礎に置きながら、文の基本構造を理解し、考えを単文で表現するために必要な知識・技能について学ぶ。	◎						○	
LEN102	外国語	英語2	1	必修	1	英語でまとまりのある文章を効果的に表現し、身近なトピックについて書かれた英文を正確に読むための技法と、語彙・文法の理解をさらに深める。	◎						○	
LEN201	外国語	実用英語1	1	選択	2	大学生が実生活において必要とされる表現力を身に付け、日常的に英語を「使う」ための実用的なスキルを学ぶ。これに関連付けながらTOEICで求められる知識も扱う。	◎				○		○	
LEN202	外国語	実用英語2	1	選択	2	「実用英語1」で目指した力をさらに発展させ、表現の幅を広げながら実用的な英語力の定着を図る。その指標としてTOEICを活用し、より高いスコアをあげるためのスキルについて学ぶ。	◎				○		○	
LEN301	外国語	実用英語3	1	選択	3	大学生として学ぶ専門領域と関係のあるトピックについて、ジャンルに特化した表現に慣れ親しみ、平易な文章で書かれたテキストを読む。	◎				○		○	
LEN302	外国語	実用英語4	1	選択	3	学内外において様々な人と交わり、英語を用いて論理的に議論を組み立て、抽象的な概念も表現できるようにする。またTOEICを活用し、実社会での英語運用能力を高める。	◎				○		○	
LCN201	外国語	中国語1	1	選択	2	中国語の発音の基礎や基本的な文法と語彙を学ぶ。	◎						○	
LCN202	外国語	中国語2	1	選択	2	中国語1に引き続き中国語の発音や文法を学び、中国語の表現のバリエーションを増やす。	◎						○	
LCN301	外国語	中国語3	1	選択	3	「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく学修する。	◎						○	
LCN302	外国語	中国語4	1	選択	3	「聞く・話す・読む・書く」の4技能をさらに高めるための中級段階の語彙、表現、文法を中心に学ぶ。	◎						○	
LEN303	外国語	English Seminar1	2	選択	3	本科目は、TOEICの対策講座である。基本から見直し、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能を身につける。	◎			○	○		○	
LEN304	外国語	English Seminar2	2	選択	3	本科目は、TOEICの対策講座である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能をいくつかを高める。	◎			○	○		○	
LEN401	外国語	English Seminar3	2	選択	4	本科目は、TOEICの対策講座である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能を総合的に高める。	◎			○	○		○	
LJP101	留学生特例	日本語1	1	選択	1	大学で使う読解力、聴解力を身につけるために様々なタイプの文章を読み取る練習をおこない、日本語の言葉や表現の理解を深める。	◎						○	
LJP102	留学生特例	日本語2	1	選択	1	様々なタイプの文章を正確に読み取る練習や日本語の言葉や表現の理解を深め、大学で使う読解力、聴解力を身につける。	◎						○	
LJP201	留学生特例	日本語3	1	選択	2	各自の興味に応じた読み物などを選び、それについての発表を行うことにより、日本語を理解する能力を身につける。	◎						○	
LJP202	留学生特例	日本語4	1	選択	2	各自の興味に応じた読み物などを選び、それについての発表を行うことにより、より専門的な内容の日本語を理解する能力を身につける。	◎						○	
LJP301	留学生特例	日本語5	1	選択	3	論理的な思考から自分の考えを表現する能力を身につける。	◎						○	
LJP302	留学生特例	日本語6	1	選択	3	論理的な思考から自分の考えを上手に表現し、伝える能力を身につける。	◎						○	
LJP103	留学生特例	実用日本語1	1	選択	1	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、入門的な日本語能力を高める。	◎						○	
LJP104	留学生特例	実用日本語2	1	選択	1	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、日常における基礎的な日本語能力を高める。	◎						○	
LJP203	留学生特例	実用日本語3	1	選択	2	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、日常における実践的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP204	留学生特例	実用日本語4	1	選択	2	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、応用的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP303	留学生特例	実用日本語5	1	選択	3	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、専門的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP304	留学生特例	実用日本語6	1	選択	3	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、総合的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP105	留学生特例	日本事情1	2	選択	1	日本についての情報から、自分なりの日本を発見し、それを伝えることにより日本の理解を深める。	◎						○	
LJP16	留学生特例	日本事情2	2	選択	1	日本について調査し、自分なりの日本を発見し、それを伝えることにより日本の理解を深める。	◎						○	
LJP305	留学生特例	資格日本語1	2	選択	3	日本語能力試験の入門的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP306	留学生特例	資格日本語2	2	選択	3	日本語能力試験の基礎的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP401	留学生特例	資格日本語3	2	選択	4	日本語能力試験の応用的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP402	留学生特例	資格日本語4	2	選択	4	日本語能力試験の総合的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連（◎強く関連、○関連）								
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性				
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。	
							大学DPとの関連								
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)	
PSS101	文章表現	日本語リテラシー1	2	選択	1	自分の考えていることや知っていることが相手に正しく伝わるようにするために、文と語句・段落構成・全体構成を整える技能を身につける文章作成科目である。	○			◎	◎				○
PSS102	文章表現	日本語リテラシー2	2	選択	1	他者の文章などを要約して、論点を見つけることによって、適切に引用して、自己の意見と他者の意見を区別しつつ、自己の意見を小論文形式で作成する技能を身につける科目である。	○			◎	◎				○
PSS201	文章表現	アカデミックライティング1	1	選択	2	他者の文章・図表から自ら論点を見つけて、自ら調査した内容と組み合わせで論じること、他者の意見を批判的に検討した文章を作成する技能を身につける科目である。		○		◎	◎				○
PSS202	文章表現	アカデミックライティング2	1	選択	2	学術的な「問い」に対し、自分で全体構造（アウトライン）を考えた文章を作成できるようにするために、論証に必要な論理的思考を身につける科目である。		○		◎	◎				○
PSS301	文章表現	リサーチプロジェクト1	1	選択	3	信頼できる情報源から情報を収集する方法を把握して、図表などを適切に用いて表現するため技能を用いて文章を作成する科目である。		○		◎	◎				○
PSS302	文章表現	リサーチプロジェクト2	1	選択	3	卒業研究に備えて、研究テーマや学術的な問いの立て方、研究計画書を作成する際に記載すべき事項を学んで、実践していく文章表現科目である。		○		◎	◎				○
INT101	海外研修	海外研修1	1	選択	1～4	海外研修の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT102	海外研修	海外研修2	1	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT103	海外研修	海外研修3	2	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT104	海外研修	海外研修4	2	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT105	海外研修	海外研修5	6	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT106	海外研修	海外研修6	6	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
DA1101	データサイエンス・AI	情報リテラシー	2	必修	1	レポートや論文の作成に必要なアカデミックリテラシーを学ぶ。具体的には、参考文献・引用・データ処理などを学ぶ。	◎			◎	○	○			
DA1102	データサイエンス・AI	プログラミング入門	2	選択	1	コンピュータに対する命令がどのように書かれているかを理解し、基礎的なプログラミングを実行できるようになるため、プログラミングに関する講義・問題演習と簡単なアプリ開発演習を行う。		○		◎	○	○			
DA1103	データサイエンス・AI	AI基礎	2	選択	1	AI（人工知能）・深層学習を始めとする情報技術の概要と仕組み・活用事例を学び、情報技術の進展による社会の変化と個人への影響を理解することを通じて、社会・組織・個人の問題解決のために情報技術を有効かつ安全に活用する能力を身につける。		○		◎	○	○			
DA1104	データサイエンス・AI	データサイエンス1	2	選択	1	データやAI（人工知能）を日常生活や仕事等で使いこなせる基礎的なスキルを身につける。データを可視化し、データから事象を理解できるようになるとともに、データやAIの限界についても学ぶ。	○			◎	○	○			
DA1201	データサイエンス・AI	データサイエンス2	2	選択	2	データサイエンスの基本として、どの分野を学ぶにも必要となる標準的な統計学として、記述統計や入門的な推測統計を学ぶ。実際にデータとデバイス・ソフトを活用して経験的に統計学の概念を学ぶ。		○		◎	○	○			
DA1202	データサイエンス・AI	データサイエンス3	2	選択	2	データサイエンス1および2で学んだ内容を発展させ、多変量解析について中心的に学習する。		○		◎	○	○			
DA1301	データサイエンス・AI	データサイエンス4	2	選択	3	人工知能に関する正しい知識を学び、機械学習の実装方法の一端を体得することを目的とする。機械学習の基礎的な概念と理論を学び、機械学習を応用するために必要な知識の習得を目指す。		○		◎	○	○			
DA1203	データサイエンス・AI	社会調査法	2	選択	2	さまざまな調査を行う際の企画の立て方、データの収集方法およびその取扱い方など社会調査を行う上で必須となる知識・技能を学習する。また、簡単なサンプリングや質問文の作成などのワークを通じて、調査の設計における注意事項などを学習する。		○		◎	○	○			
DA1204	データサイエンス・AI	データサイエンスのための数学	2	選択	2	データサイエンスに必要な数学として、線形代数・微分積分・確率論・統計学の4領域を学習する。		○		◎					
DA1302	データサイエンス・AI	データベース	2	選択	3	データベースを構築・操作する実践演習を通じて、データベースの仕組みを理解し、データベースの設計と運用管理手法を学ぶ。		○		◎					
DA1303	データサイエンス・AI	データエンジニアリング	2	選択	3	データの取得の方法から、実際に機械学習に利用できるようにデータを整形する各種の前処理手法について学ぶ。		○		◎	○				
CAE101	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアデザイン1	1	選択	1	基礎ゼミナールと連動し、毎週45分で開講されるリフレクション科目となる。自己の経験をふりかえり、他者に伝える。社会人による講座も実施する。	○						◎		
CAE102	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアデザイン2	1	選択	1	基礎ゼミナールと連動し、毎週45分で開講されるリフレクション科目となる。自己の経験をふりかえり他者に効果的に伝える。社会人による講座も実施する。	○						◎		
CAE103	リーダーシップ・キャリア形成	リーダーシップ入門	1	選択	1	目標達成に向けて組織を率い導く資質能力であるリーダーシップの概念と理論の変遷について学び、企業・組織のマネジメントのあり方と関連して今後求められるリーダーシップについて自分の意見を確立する。	○						◎	◎	○
CAE104	リーダーシップ・キャリア形成	ファシリテーション論	2	選択	1	チーム活動やグループ学習、ディスカッション等において、グループを活性化させるためのチームビルディングやファシリテーションの手法や考え方を、主に実践を通じて身につける。							◎	◎	○
CAE201	リーダーシップ・キャリア形成	アントレプレナーシップ論	1	選択	2	起業家による体験談の講演、デザイン思考等の思考法やフレームワークに関する講義・演習、ビジネスプランの作成とそれに基づく仮説検証や顧客ヒアリング等の機会を通じて、アントレプレナーシップの精神を身につける。							◎	○	○
CAE202	リーダーシップ・キャリア形成	キャリア形成論	1	選択	2	自分の生き方について考え、主体的にキャリアを形成するために必要な知識と考え方について学ぶ。キャリア形成の基盤となる能力と態度を身につけ、在学時のみならず生涯に亘って自律的にそれを実践できるようになることを目指す。	○					◎	○		
CAE301	リーダーシップ・キャリア形成	インターンシップ	2	選択	3	インターンシップに関する事前研修をうけ、インターンシップに参加することで職業体験を行う。事後研修も実施する。	○						◎		

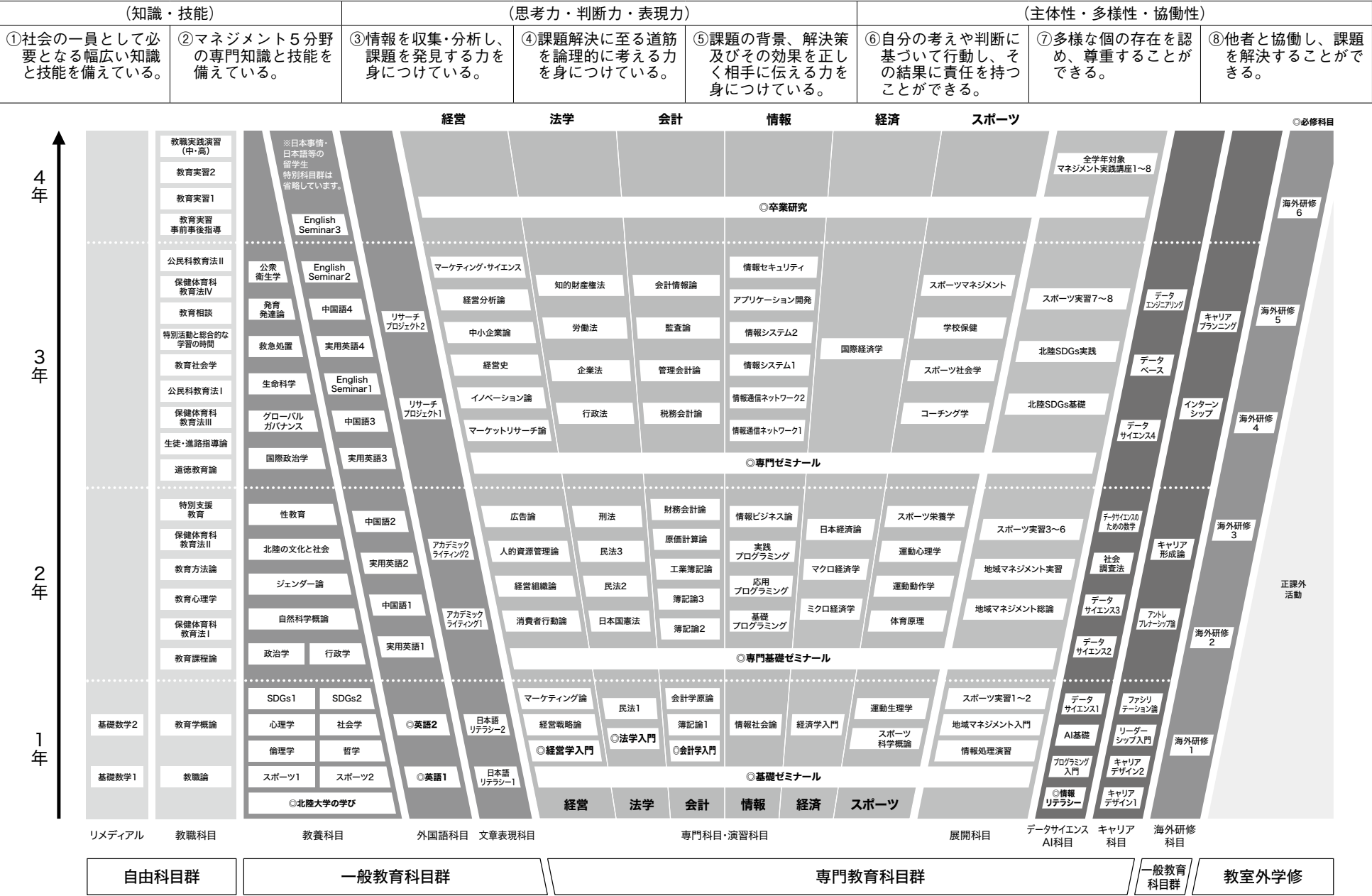
経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)								
ナン バ リ ン グ	科 目 群	科目名	単 位 数	科 目 区 分	配 当 年 次	科目 概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性				
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。	
							大学DPとの関連								
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)	
CAE302	リダーシップ・キャリア形成	キャリアプランニング	2	選択	3	インターンシップにおける活動の振り返りをグループで行うこと等を通じて、自分のキャリアを自律的にデザインできるようになることを目指す。	○					◎	○		
EC0101	経済基幹	経済学入門	2	必修	1	経済学の基礎について学ぶ。具体的には機会費用やインセンティブなどを学ぶ。加えて、学んだことを用いて身近なテーマについて考える。	○	◎							
MAN101	経済基幹	経営学入門	2	選択	1	経営学領域の学びの導入として組織内部と外部のマネジメントと、幅広く基礎的な論点を学習する。	◎	○							
ACC101	経済基幹	会計学入門	2	選択	1	会計学の基礎的な考え方の理解を目的とし、会計の目的、会計の利用(財務会計・管理会計)や、複式簿記のしくみについて学ぶ。	◎	○							
EC0102	経済基幹	ミクロ経済学1	2	必修	1	個別主体の合理的意思決定、市場理論、そして市場理論をめぐる様々な議論について学習する。これらは経済学の基本であり、様々な応用分野を学ぶ時にも必要になる。	○	◎		○					
EC0201	経済基幹	ミクロ経済学2	2	必修	2	ミクロ経済学の基本的なトピックについて扱ったミクロ経済学1に対して、ミクロ経済学2はトピックを厳選してそれぞれ掘り下げて学修する。	○	◎		○					
EC0103	経済基幹	マクロ経済学1	2	必修	1	国内総生産(GDP)を中心に学修する。GDPがどのような要因によって決定され、それらの変化に対して家計、企業、政府、他国がどのように関係しているのかを理解する。	○	◎		○					
EC0202	経済基幹	マクロ経済学2	2	必修	2	マクロ経済学1で身に付けた知識を基礎として、政府が実施する財政政策や金融政策がどのようにGDPに影響するのかを理解する。	○	◎		○					
EC0104	経済基幹	経済数学	2	選択	1	経済学や経営学を学ぶ上で必要になる数学を学ぶことを目的とする。	○	◎		○					
EC0203	経済基幹	経済統計	2	選択	2	経済を客観的に把握するために作成されている国内総生産(GDP)などの経済統計を学ぶ。学んだ統計を利用して日本経済の現状についてマクロ面を中心に分析できるようにする。	○	◎	◎						
EC0301	経済基幹	計量経済学	2	選択	3	統計用ソフトなどを利用した実践・実習の前段階にあたる科目であり、計量経済学の理論的背景を中心に学修する。		◎	◎	○					
EC0302	経済基幹	経済データ分析	2	選択	3	計量経済学で学んだ理論的知識をベースに公表されているデータや学生が収集してきたデータをもとに実践的に経済を学ぶ科目である。		◎	◎		○				
EC0204	経済基幹	経済の思想と哲学	2	選択	2	インセンティブ、均衡、効用や便益、限界費用といった代表的な専門用語などを取り上げ、その背景にある経済学の発想や思想を学修する。	○	◎							
EC0205	経済基幹	ゲーム理論	2	選択	2	ゲーム理論の入門。標準形ゲームとナッシュ均衡に始まり、展開形ゲームとサブゲームナッシュ均衡について学修する。さらに不完全情報ゲーム、不完備情報ゲームの基本理論を学ぶ。		◎		○					
EC0206	経済基幹	日本経済論	2	選択	2	現代日本の経済事情について学ぶ。日本経済が直面する問題についてディスカッションも行う。	○	◎		○					
EC0105	経済専門	金融リテラシー	2	選択	1	100年時代の人生を生き抜くために欠かせない、お金にかかる教養を身につける。	○	◎		○					
EC0207	経済専門	金融論	2	選択	2	金融リテラシーで学修した内容を活かしながら、金融取引・市場、金融機関の機能、金融商品、現在価値、債券市場、株式市場、外国為替市場、デリバティブ取引などについて学修する。	○	◎		○					
EC0208	経済専門	ファイナンシャルプランニング	2	選択	2	ファイナンシャル・プランニング(FP)技能検定試験3級レベルの、ライフプランニング力を培う。		◎		○					
EC0303	経済専門	国際金融論	2	選択	3	外国為替市場・相場にかかる基本知識と、国際収支表の見方とを修得する。		◎		○					
EC0304	経済専門	コーポレートファイナンス	2	選択	3	「金融論」で修得した知識をベースに、プロジェクトやM&Aの投資評価や配当政策など企業の財務戦略立案にかかる基本知識・技術を修得する。		◎		○					
EC0209	経済専門	財政学	2	選択	2	政府(中央政府および地方自治体)の経済活動を観察し、財源や歳出項目に関して幅広い知識を身に付けることを主眼とした科目である。		◎		○					
EC0305	経済専門	公共経済学	2	選択	3	ミクロ経済学で学んだ市場経済の利点と市場の失敗について理解したうえで政府(中央政府および地方自治体)の公共財供給の理論を中心的に学ぶ。		◎		○					
EC0306	経済専門	行動経済学	2	選択	3	行動経済学としてのテキストでも取り上げられる題材を学修する。具体的には、ヒューリスティクス、時間選好率の問題、リスク選好とプロスペクト理論、社会的選好、ナッジ理論などを学ぶ。		◎		○					
EC0210	経済専門	経済政策	2	選択	2	政府や中央銀行の政策とそれが伝わるメカニズムを学ぶことで、政策が適切かどうか、自分で評価できる力を身につけることを目的とする。		◎		○					
EC0307	経済専門	社会保障論	2	選択	3	少子高齢化が進展する日本において持続可能な社会を実現するために今後どのような制度設計が必要かを中心的に学ぶ。	○	◎		○					
EC0211	経済専門	労働経済学	2	選択	2	家計の最適化行動から導かれる労働供給と、企業の最適化行動から導かれる労働需要について学修する。これらを組み合わせて労働市場を分析する。ジェンダーギャップや日本の労働市場に特有の問題についても取り扱う。		◎		○					
EC0308	経済専門	教育経済学	2	選択	3	教育に関連した課題を経済学によって分析する。具体的には、人的資本モデル、シグナリングモデル、教育投資の収益、教育生産関数、地域の公教育のファイナンス、学校選択モデル、高等教育の市場分析などを学ぶ。		◎		○					
MAN201	経済専門	マーケティング論	2	選択	2	企業の対市場活動を理解するために、製品、価格、プロモーション、流通の視点から、具体的なケースとあわせて、背後にある理論やロジックを学ぶ。	○	○		◎					
MAN304	経済専門	イノベーション論	2	選択	3	企業が成長、競争する上で重要なイノベーションに関する基本的な理論・知識を習得する。イノベーションとは何か、イノベーションの発生・普及過程を整理するとともに、大企業がジレンマに陥る原因等を考察する。	○	○		◎					
EC0309	経済専門	都市・地域経済論	2	選択	3	SDGsの目標達成のために、都市や地域がどのような政策を立案・実行すれば活性化につながるかを学修する。		◎		○					
EC0310	経済専門	医療経済論	2	選択	3	日本の医療制度を国際比較しながら分析する。医療分野で問題となっている様々なトピックについて経済学の枠組みを用いて考察、対応策を提案する。		◎		○					
EC0212	経済専門	資源・エネルギー論	2	選択	2	日本や世界の資源やエネルギーの現状を整理し、持続可能な成長のために必要な政策等について学ぶ。	○	◎		○					
EC0213	経済専門	国際経済学	2	選択	2	国境を超えた経済活動を経済学的に分析し、国際経済の問題についてディスカッションを行う。		◎		○					

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性					
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析・発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
EC0311	経済専門	環境経済学	2	選択	3	環境問題が発生するメカニズムなどを経済学の枠組みを用いて説明する。その上で、環境負荷を軽減するためにどのような手法があるのか、環境税や排出権取引など具体的な事例を学修する。	○	◎		○				
EC0312	経済専門	開発経済学	2	選択	3	発展途上国の貧困や経済格差といった問題に着目し、その解決方法について考える。	○	◎		○				
EC0313	経済専門	グローバル経済論	2	選択	3	経済学の枠組みを用いながら、貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について理解すると同時に、貿易政策や国際経済システムについて学ぶ。	○	◎		○				
EC0314	経済専門	北陸SDGs基礎	2	選択	3	2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)の内容を理解するとともに、北陸地域における取り組みなどについて学ぶ。授業では、各都市などの取り組みについて主に理論面から学ぶ。	◎	◎		○	○		○	
EC0315	経済専門	北陸SDGs実践	2	選択	3	2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)の内容を学んだ上で、北陸の地域特性に合わせた取り組みを提案する。	◎	◎		○	○	○	○	○
ACC102	展開	簿記論	2	選択	1	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、商業簿記の仕訳や決算手続、課税所得の算定と税効果会計、収益の認識基準といった個別論点の知識を習得する。	○	◎						
ACC201	展開	財務会計論	2	選択	2	財務会計の基礎的な知識を習得し、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の内容と関係性を理解する。そして、それら財務諸表の分析手法を学ぶ。	○	◎						
MAN202	展開	人的資源管理論	2	選択	2	企業の重要な経営資源であるヒト、モノ、カネ、情報。この中で「ヒト」に焦点をあて、人材をどのように育成すればいいのか、どうすれば組織のパフォーマンスが上がるのか等について、賃金体系や昇進システムなども含めて考察する。	○	◎						
LAW101	展開	法学入門	2	選択	1	「法的思考力」を身につけるために、法学の基本的知識を学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW102	展開	民法1	2	選択	1	民法総則および「人と人との関係」のうちの「家族関係」上の具体的な問題(子の権利、夫婦関係、親子関係、相続など)を中心に学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW201	展開	民法2	2	選択	2	「人と人との関係」を支える契約や不法行為などを中心に学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW202	展開	日本国憲法	2	選択	2	国会・内閣・裁判所の憲法上の位置づけと、立憲主義(人権を尊重し、国家権力を制限すること)を学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW301	展開	企業法	2	選択	3	会社制度の法的枠組みと会社統治の仕組み、会社の資金調達について学ぶ。	○	◎		○	○			
CDS101	展開	地域マネジメント入門	2	選択	1	地方における諸問題(人口減少・少子高齢化など)を題材に、自治体などが実施している政策・施策について学ぶ。	○	◎		○	○			○
CDS201	展開	地域マネジメント総論	2	選択	2	各自治体における課題とそれに対する政策・施策をグループワーク中心で学ぶ。	○	◎		○	○			○
CDS202	展開	地域マネジメント実習	1	選択	2	公的統計の収集・分析、文献調査、事例分析、フレームワーク分析をグループで実施して、SDGsの目標達成や持続可能な社会の実現のために地域コミュニティを豊かにする方策を検討する。	○	◎		○	○	○	○	○
INF201	展開	基礎プログラミング	2	選択	2	基礎的なプログラムを自分で作成できる技能を身につけた上で、効率よく問題を解決するために必要なデータ構造とアルゴリズムの基礎について理解する。	○	◎	○	○				
INF202	展開	応用プログラミング	2	選択	2	基礎プログラミングで身につけた知識・技能を前提として、実践と問題解決に必要な技術と概念を身につける。データベースと連携させたWebアプリケーションの開発に必要な技術と概念を身につける。	○	◎	○	○				
INF203	展開	実践プログラミング	2	選択	2	フレームワークを利用したWebアプリケーション開発演習を通じて、実践的なWebアプリケーション開発の基礎と実践的なプログラミング技術を修得する。	○	◎	○	○				
HSS101	展開	スポーツ科学概論	2	選択	1	健康・体力づくりから、運動・スポーツにかかわる科学的知識・思考力の基礎を学ぶ。	○	◎						
HSS301	展開	コーチング学	2	選択	3	スポーツコーチングに必要な専門的知識を学び、コーチング計画を立案し、プレゼンテーションを行う。	○	◎						
HSS302	展開	スポーツ社会学	2	選択	3	現代社会におけるスポーツの様々な現象を社会学的視点から捉え、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会的意義について学ぶ。	○	◎						
HSS303	展開	スポーツマネジメント	2	選択	3	スポーツ産業の在り方やプロ・地域スポーツクラブの経営・運営方法について学び、実際にスポーツイベントを企画し、プレゼンテーションを行う。	○	◎		○	○			○
ZEM101	演習	基礎ゼミナール	4	必修	1	大学生としてのスタディスキルや協働力と知識活用型の言語リテラシーを身につけるための初年次ゼミである。			○	◎	○	◎	○	○
ZEM201	演習	専門基礎ゼミナール	4	必修	2	様々な分野のテキストを読解し、レジュミにまとめ、論点を議論し、レポートにまとめる力を身につけるためのゼミである。	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
ZEM301	演習	専門ゼミナール	4	必修	3	ゼミ担当教員の専門領域に関する文献を読み、ディスカッションや発表などを行う。フィールドワークを行うクラスもある。専門領域の基礎的な知識と専門分野の思考様式を学ぶ。		◎	○	○	○	◎	◎	◎
ZEM401	演習	卒業研究	6	必修	4	卒業のためには、卒業論文の作成または共同研究の実施のいずれかを必須とする。いずれも発表会を行う。		◎	○	○	○	◎	◎	◎
TTC101	教職	教育学概論	2	自由	1	教育学の基礎的な知識を取り入れながら「学び」の意義を考え自分なりの教育観を構築する。						◎	○	○
TTC102	教職	教職論	2	自由	1	教師という職業に対する見方が変化している今日、教師に求められる資質・能力は何かを多面的・多角的に学ぶ。						◎	○	○
TTC301	教職	教育社会学	2	自由	3	教育と社会の関係性について、社会階級や格差、ナショナルイズムなどを通して学ぶ。						◎	○	○
TTC201	教職	教育心理学	2	自由	2	教師として必要となる「発達と学習」「教育評価」「障害児教育」などを含めた心理学的知識について学ぶ。						◎	○	○
TTC202	教職	特別支援教育	1	自由	2	個に重点を置いた学校教育において、一人一人の児童生徒の課題に丁寧に向き合い課題解決に向けて具体的な障害とそれに応じた指導方法等について学ぶ。						◎	○	○
TTC203	教職	教育課程論	2	自由	2	学校教育における教育内容の中心である教育課程の意義や実際について理解するとともに、教育課程をめぐる現代的な教育課題について学ぶ。						◎	○	○

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連(◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
TTC302	教職	道徳教育論	2	自由	3	学校における道徳教育の位置づけや「特別の教科道徳」を指導する上での基礎的な知識・理論を修得し、学習指導案作成し授業の進め方等を学ぶ。						◎	○	○
TTC303	教職	特別活動と総合的な学習の時間	2	自由	3	特別活動では、ねらいや内容、実施上の課題、指導案の作成等、総合的な学習の時間では、様々な取り組みの事例をもとに、地域や学校にあった活動について学ぶ。						◎	○	○
TTC204	教職	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法)	2	自由	2	情報機器の活用による学習事例やその効果について検討し、情報機器を活用する授業を構想し、そのための教材作成スキルを学ぶ。						◎	○	○
TTC304	教職	生徒・進路指導論	2	自由	3	生徒指導の教育的意義と課題、進路指導の原理と実践について理解を深める。さらに現在学校で実践されているキャリア教育の取組も学ぶ。						◎	○	○
TTC305	教職	教育相談	2	自由	3	教育相談を行うときに求められる対応や必要な理論・技法について概観し、学校現場における教育相談的なかわりや人間観について学ぶ。						◎	○	○
TTC401	教職	教育実習事前事後指導	1	自由	4	事前指導では実習生として教育活動に積極的に取り組む態度を養い、事後指導では実習で得られた成果と課題等を省察することで、教育実習の意義を理解する。						◎	○	○
TTC402	教職	教育実習1	2	自由	4	観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通じて、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考える。						◎	○	○
TTC403	教職	教育実習2	2	自由	4	観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通じて、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考え、自らの課題を考える。						◎	○	○
TTC404	教職	教職実践演習(中・高)	2	自由	4	教職課程の最終段階において教員として「使命感や責任感」「社会性や対人関係能力」「生徒理解や学級経営」「教科の指導力」など必要な資質・能力が形成されているかをふりかえる。						◎	○	○
TTC306	教職	公民科教育法1	2	自由	3	高等学校の公民科の現代社会・倫理・政治経済の基礎的な内容を学ぶ。				○		◎	○	○
TTC307	教職	公民科教育法2	2	自由	3	高等学校の公民科の現代社会・倫理・政治経済の応用的な内容を学ぶ。				○		◎	○	○
REM101	リテ'イ7L	基礎数学1	2	自由	1	高校までの基礎的な数学を復習するとともに、社会で求められる基礎的な数学力を再構築する。	○			○				
REM102	リテ'イ7L	基礎数学2	2	自由	1	高校までの基礎的な数学を復習するとともに、社会で求められる基礎的な数学的スキルを学ぶ。	○			○				

経済経営学部マネジメント学科
カリキュラム・ツリー

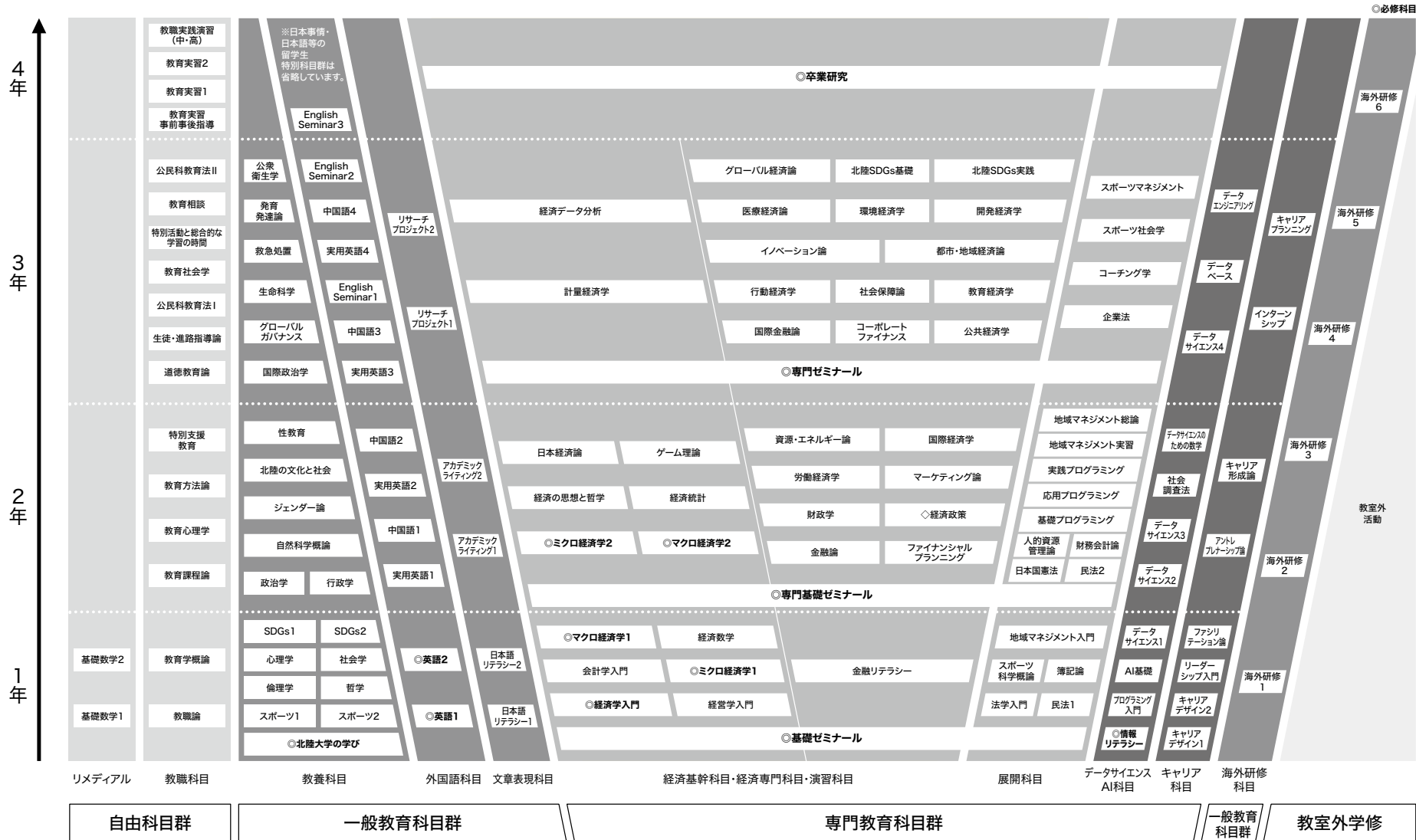
卒業までに身につけるべき知識や能力を得るため、各授業科目がどのように配置され、関連性があるかを示す。



経済経営学部経済学科 カリキュラム・ツリー

卒業までに身につけるべき知識や能力を得るため、各授業科目がどのように配置され、関連性があるかを示す。

(知識・技能)		(思考力・判断力・表現力)			(主体性・多様性・協働性)		
①持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	②経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	③新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	④物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	⑤分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	⑥自己を理解し、主体的に行動することができる。	⑦自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	⑧チームで協働し、課題を解決することができる。

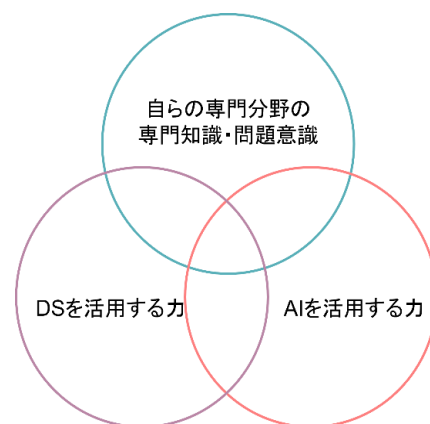


北陸大学データサイエンス・AI 応用基礎（副専攻）プログラム

【北陸大学データサイエンス・AI 応用基礎（副専攻）プログラムとは】

北陸大学経済経営学部では、「北陸大学データサイエンス・AI 教育プログラム」の上位プログラムとして、『北陸大学データサイエンス・AI 応用基礎（副専攻）プログラム』を開始します。

このプログラムは、自らの専門分野を持ち、当該分野における問題発見・問題解決のために、DS や AI を道具として活用できるようになることを目指す教育プログラムです。



【プログラム修了要件】

- ◇ 卒業までに以下のプログラム対象科目 6 科目 12 単位を修得すること。
- ◇ プログラム修了認定者には、オープンバッジによる「修了証」を授与する。

【プログラム対象学生及び対象科目】

2024 年度以降に入学する経済経営学部生（編入学生除く）

【プログラム対象科目】

科目名	開講期	単位数	科目区分
情報リテラシー	1 年前期	2	必修
プログラミング入門	1 年前期	2	選択
AI 基礎	1 年後期	2	履修指定
データサイエンス 2	2 年前期	2	履修指定
データサイエンスのための数学	2 年後期	2	選択
データサイエンス 4	3 年前期	2	選択

※ 必修及び履修指定科目は事前に履修登録していますが、選択科目については、各自で履修登録をおこなってください。

【注意事項】

- ◇ プログラムの受講希望者は、1 年次後期履修登録期間に登録手続きを行うこと。
- ◇ 1 年次後期までに「情報リテラシー」及び「AI 基礎」の 2 科目の単位を修得できない場合は登録を取り消す。

北陸大学経済経営学部教務委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、北陸大学教授会規程第11条第2項に基づき、経済経営学部教授会（以下、「学部会」という。）の下に、常置委員会として経済経営学部教務委員会（以下、「委員会」という。）を置き、その構成及び運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務委員長
- (2) 学部長が教務委員長の意見を聴き指名する教員3人
- (3) 学部長が事務局長の意見を聴き教務担当部署から指名する職員1人

(任務)

第3条 委員会は、経済経営学部に関する次の各号に掲げる事項を審議立案する。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 授業日程及び授業時間割に関する事項
- (3) 教育施設の整備充実に関する事項
- (4) 試験の実施計画及び追試験出願者の許可認定に関する事項
- (5) 進級及び卒業の資格認定に関する事項
- (6) 転学部、転学科に関する事項
- (7) 単位互換に関する事項
- (8) 編入学、転入学及び再入学出願者の入学資格の認定に関する事項
- (9) 科目等履修生・聴講生等の入学資格の認定に関する事項
- (10) 履修証明プログラム履修生の受入れの認定に関する事項
- (11) その他教務及び身分等に関する事項

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 欠員を生じた場合の補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第5条 委員長は、委員会を招集し議長となる。

- 2 委員会は委員の過半数の出席がなければ、会議を開催することができない。
- 3 議事の決定は、出席委員の過半数の同意を要する。
- 4 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(付議)

第6条 委員長は、議事の結果について、学部会に付議するものとする。

(事務)

第7条 委員会の事務は、教務課が行う。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、学部会の議を経て、学長が決定する。

附則(平成28年12月15日制定 第263回理事会)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附則(改正 2018(平成30)年11月27日2018年度第10回経済経営学部教授会 2019年1月12日学長決定)

この規程は、2019年4月1日から施行する。

北陸大学経済経営学部教務委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、北陸大学教授会規程第11条第2項に基づき、経済経営学部教授会（以下、「学部会」という。）の下に、常置委員会として経済経営学部教務委員会（以下、「委員会」という。）を置き、その構成及び運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務委員長
- (2) 学部長が教務委員長の意見を聴き指名する教員3人
- (3) 学部長が事務局長の意見を聴き教務担当部署から指名する職員1人

(任務)

第3条 委員会は、経済経営学部に関する次の各号に掲げる事項を審議立案する。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 授業日程及び授業時間割に関する事項
- (3) 教育施設の整備充実に関する事項
- (4) 試験の実施計画及び追試験出願者の許可認定に関する事項
- (5) 進級及び卒業の資格認定に関する事項
- (6) 転学部、転学科に関する事項
- (7) 単位互換に関する事項
- (8) 編入学、転入学及び再入学出願者の入学資格の認定に関する事項
- (9) 科目等履修生・聴講生等の入学資格の認定に関する事項
- (10) 履修証明プログラム履修生の受入れの認定に関する事項
- (11) その他教務及び身分等に関する事項

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 欠員を生じた場合の補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第5条 委員長は、委員会を招集し議長となる。

- 2 委員会は委員の過半数の出席がなければ、会議を開催することができない。
- 3 議事の決定は、出席委員の過半数の同意を要する。
- 4 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(付議)

第6条 委員長は、議事の結果について、学部会に付議するものとする。

(事務)

第7条 委員会の事務は、教務課が行う。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、学部会の議を経て、学長が決定する。

附則(平成28年12月15日制定 第263回理事会)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附則(改正 2018(平成30)年11月27日2018年度第10回経済経営学部教授会 2019年1月12日学長決定)

この規程は、2019年4月1日から施行する。

大学等名	北陸大学（経済経営学部）	申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
教育プログラム名	北陸大学データサイエンス・AI応用基礎プログラム（経済経営学部）	申請年度	令和7年度

北陸大学データサイエンス・AI応用基礎プログラム（経済経営学部） 取組概要

【開講されている科目の構成と修了要件】

科目名	開講期	単位数	必須
情報リテラシー	1年前期	2	○
プログラミング入門	1年前期	2	○
AI基礎	1年後期	2	○
データサイエンス2	2年前期	2	○
データサイエンスのための数学	2年後期	2	○
データサイエンス4	3年前期	2	○

6科目12単位修得により修了認定し、修了証とオープンバッジを発行する



【特色ある取り組み】

- ・生成AIを利用した実践的アプリ開発スキルの習得
- ・オープンソースソフトウェア活用による自由で持続可能な学び
- ・ノーコードツールを採用したデータ分析教育
- ・教室内反転学習の実施（個別最適な学習＋相互支援）
- ・実データの提供、分析コンペ

【学生への学習支援】

- ・教員＋SAによるチーム・ティーチング、授業外サポート会

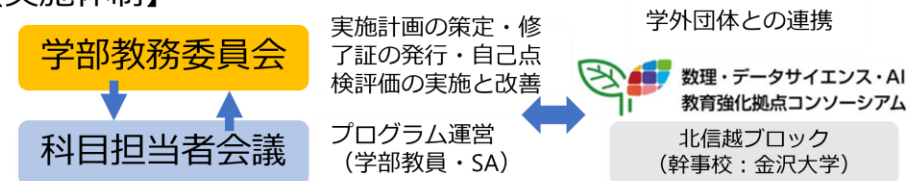


【プログラムの目的と身に付けられる能力】

社会・組織・個人の課題発見と解決のために、データサイエンス・AIを有効かつ安全に活用するための以下の能力と態度を身に付ける。

- (1) データの収集・分析を通じて課題を発見し、解決策を構想・表現する力
- (2) 課題に応じて適切なAI技術を選択・活用し、解決のための仕組みを構築する力
- (3) データサイエンス・AIについて、生涯にわたって主体的に学び続ける態度

【実施体制】



【オープンソースソフトウェア】



【産学連携】



【履修者数】 一期生（2024年度）：77名